昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年10月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

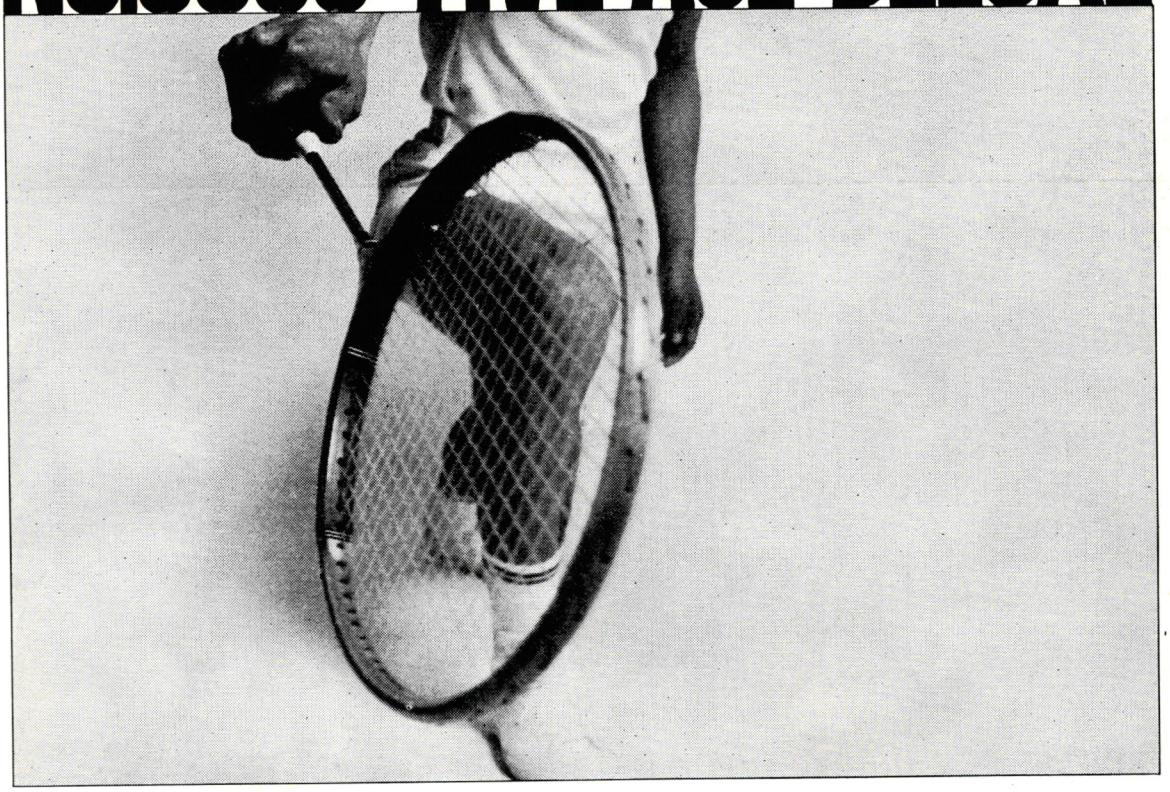
バドミントン界

no.26
10
1971

THE BADMINTON WORLD



No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/¥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

今月の話題

ママさんの〝組織化〟促進を

底辺拡大普及に百年の大計

さきごろ、東京都下で家庭婦人の軟式庭球の大会が開かれた。観戦に行ったわけではないから、どんな内容だったかは、よくわからない。しかし、案内状をもらったとたんに「あ、またやられた」と思わざるを得なかった。

ひと口に家庭婦人といってもいろいろあるが、主として小・中学校生の子どもを持ち、PTAを母体としているお母さん方のなかで、盛んなスポーツはバレー、卓球、バドミントンの順だという。

あまり、むずかしくない、大勢の人が同時にやれる、といった条件で、こうした種目がおのずから決まってきたらしい。バレーボールの関係者によると、ママさんバレーと称する競技人口は、全国で三万チームあるという。ぎりぎりに見積っても三十万人、一チーム三十人いれば約百万人のお母さん方が、プレーを楽しんでいることになる。

卓球の方は、具体的にはわからないが、すでに本誌上でも紹介したとおり、東京でやはり家庭婦人の大会が盛大に開かれている。だが、バドミントンはどうか。

グループは所々方々にある。地方では市町村の単位で、恐らく大会が行なわれていることだろう。東京でも、近年は十月十日の「体育の日」に家庭婦人だけの試合が恒例になっている。

しかし、残念なことに、日本バドミントン協会は、これらの行事に、なんら直接タッチしていない。従って、どこにどんなグループがあるかは知るよしもない。

はたして、それでいいだろうか、と考える少数の人々が、実は、根気よくグループの組織化に乗り出しはじめた。近く、本誌でも紹介できると思っているが、やはり、こういう仕事をやるべきなのは、日本協会である。

ママさんのバドミントンが盛んになっても、たしかに直接、選手強化には役立たない。しかし、これは考えようによってはユ杯、ト杯の強化合宿よりは、もっと重要な意味を持った仕事である。

いま、日本の国内での各種競技間の〝競争〟は激しい。日本では、世界で名の知られたスポーツのほとんどが行なわれている。やっていないのは、ハイアライ、カーリングなど、日本の条件に合わぬ、ごく少数の競技だけである。

人々が、多くの競技にバラまかれれば、一競技の人口は限られてくる。足が少し速ければ、サッカー、ラグビーなどのクラブが陸上から選手を引き抜いていく。背の高いものはバレーとバスケットで奪い合いになる。

恐らく中学、高校のクラブではこうしたことが日常的にくり返されているだろう。ぼやぼやしていると、そのうちバドミントンの組織人口は、ふえるどころか、へりかねない。

母が楽しみ、愛着をもち、それをわが子に伝える。こうして自然のうちに、競技の底辺人口は根強く拡がっていくと思うのだ。

今月号のダイジェスト

☆交流の早期実現を答申、日中交流部会　七月の日本協会総会の決定に基いて発足した日中交流部会が「できるだけ早く中国と交流すべきである」と答申した。来年一月の定時総会で協会の態度が決まる。本号では、このニュースと合わせ、他の競技の動き、国際スポーツ界の動きも紹介した（P2～3）

☆相沢、竹中特集　人間くさい読みものを、という読者の要望に応える第一弾として、写真グラフ初の試みで、相沢マチ子選手の一日を追った。合わせて本人からの手記をそえてみた。また、パートナー竹中の春の負傷以来の闘病記をインタビュアー片桐真佐記氏に寄稿いただいた。異色の感銘深い物語りである。このほか、石川県のスポーツ機関誌に載った竹中、相沢の二人の話を転載した。（P12～P25）

☆新登場「ばどみんとん昔むかし」　戦後まもなく発足した日本バドミントン協会も、はや四分の一世紀の歴史を重ねた。苦難の創生期をふり返ることも決してムダではあるまい。岩手県協会の八木橋副会長から玉稿をいただいたのを機会に、長期連載のかまえで、むかし話をスタートする。珍談、奇談の数々をお楽しみあれ。（P4～5）

☆ここがききたい　いくら打ってもシャトルが飛ばない。こんな悩みを初心者から聞く。ものには理くつがありそこからはずれたらダメだ。基本の基本をていねいにときほぐしてみることにした。これも新連載。初心者以外もバカにせず、もう一度、読んでほしい。（P26～27）

☆勉強とクラブ活動は両立するか　これも愛読者の投書に端を発した問題。本誌はインターハイのおりに、選手たちからアンケートを求めたので、この答えを中心に、考えてみることにした。いうはやすく、行うはかたし、だが、みんなそれぞれ、がんばっている。（P10～11）

今月号の製作協力スタッフ
表紙／写真・松井亮磨／同制作・小浜正道／グラフ撮影・山田真市／その他の写真・片桐真佐記氏ほか、協会関係者、読者／カット・おおば比呂司、秦　浩

交流の早期実現めざせ

中国めぐるスポーツ界、動き活発化

バドミントン日中部会が答申

さる七月の日本バドミントン協会総会での決定に基き、中国との交流問題の可否について研究するため設置された「日中交流部会」（部会長・菊地利明常務理事）は、このほど「中国とはできるだけ早い機会に交流を実現すべきである」むねの答申をまとめ、常務理事会に提出した。

常務理事会はこれを了承、本田会長も同意を示した。この結論は体協記者クラブで発表され、さらに十月の和歌山国体の機会に開かれた全国理事長会議でも中間報告された。

日本協会は来年一月に予定される全国総会にこれを提案、審議することになっている。

日本のスポーツ界で、卓球以外にこのような態度を公表したのは、バドミントンが最初である。

× × ×

部会の答申主文は三項から成り

①できるだけ早く交流を実現すべきである

②交流にあたっては、中国を日本に招待することを第一に考える

③あわせて、中国にＩＢＦ（国際バドミントン連盟）への加盟を呼びかける

という前向きの姿勢を打ち出した。主文には触れていないがいわゆる対日政治三原則①中国を敵視しない、②「二つの中国」をつくる陰謀に加担しない③国交正常化を妨げない――の精神を尊重することが、交流の前提となっている。

部会は、まず会の性格を〝諮問機関〟と規定した上で、部会長を互選し、菊地氏に決めた。

ついで、交流すべきとすればなぜか、しなくてもいいとすればなぜか、の両点から論議「否定であれば、部会はこれ以上、論議の必要がなく、七月総会でも、否定意見は出なかった」ことを確認した。

ついで、交流した場合のメリットはなにか、ＩＢＦとの関係や、台湾との関係を研究した。同時に、転変する国際情勢にとらわれることなく論議を進め、結論を出すことにした。

すでに本誌第23号でも触れていることが主な審議材料となり技術交流の利点が多く、その場合、ＩＦ規定にも問題がないことを明らかにした。焦点の台湾問題は〝三原則〟に照らせば結論が明らかだが、具体的には総会の意志を問うことにした。

☆バドミントン、マレーシアが訪中　マレーシアのダド・ハムザ青年文化相は二十二日「マレーシアはバドミントン・チームを近々、中国に派遣する計画である」と述べた。日チームは十一月に北京で行なわれるＡＡ友好卓球大会に派遣する同国の卓球チームとおそらく同時期に訪中しよう（クアラルンプール十月二十二日ＡＦＰ＝時事）

☆中国はカナダ訪問　カナダ・バドミントン協会は、中国のバドミントン・チーム（役員二人、選手二人）が十一月カナダを訪れ、各地でエキジビションすると発表した（オタワ十月八日ロイター＝共同）

バレーボールも交流決める

来春四月男女チーム招待へ

バレーボールが日中交流に踏み切ることになった。バドミントンについで、日本のスポーツ界では三番目である。

日本バレーボール協会は十一月一日の常務理事会で日中交流問題を協議した結果「政治三原則の精神にもとずいて、来年四月に中国から男女チームを招待する」ことを決めた。

バレーボールは、さる四月、卓球の世界選手権大会が名古屋で開かれたさい、協会首脳が中国側に〝交流復活〟の意向を打診して以来、内部で協議を重ねていた。

中国のバレーボールはかなりの実力といわれ、文化大革命で中断する六六年三月まで、日本はひんぱんに交流し、東京五輪金メダルの大松監督が訪中したこともあるが、十五年ほど前は逆に日本女子が六人制を勉強に行ったなど、歴史は古い。

バレーボールでは台湾が昨年の国際連盟総会で加盟を認められ、このため、古くからのメンバーだった中国は脱退を表明した。しかし国際連盟は「正式に文書が来ていない」との理由で、いぜん加盟国と考えている。

しかし、中国が現状で世界選手権に出る意志がないことは明らか。日本が〝三原則〟の精神を尊重することは、台湾とは交流できなくなる見込みが決定的であり、今後の協会の態度が大いに注目される。

モントリオール五輪参加は絶望

道けわしバドミントン

＝IOCが拒否の態度打ち出す＝

クアラルンプール十月十三日発のAP電によれば、マレーシア・バドミントン連盟のテー・ジン・ソーイ理事長が同日「バドミントンのモントリオール五輪（六七年）参加は絶望的となった」と大要、次のように語った。

われわれはバドミントンをモントリオール五輪の種目に加えるよう要請していたがIOC（国際オリンピック委員会）から拒否の通告を受けとった。

五輪種目になるためには、少くとも三大陸、四十カ国で競技が行なわれていることが必要とされているが、バドミントンは五大陸、六十六カ国以上で競技されており、認められなかった理由がわからない。

バドミントンの五輪種目参加への運動は、来年のミュンヘン五輪で〝デモンストレーション〟の実施が決まったころから活発化していた。

五輪実施種目をふやすことについては、いろんな競技団体から要求が出ているが、IOCは今秋の総会で「全体の規模が大きすぎるようになったため、当面これ以上の増加はしない」と決めたが、日本の清川IOC委員は「希望する団体は今後とも根気よく要望を続けていくことが必要だろう」と語っている。

三月札幌などで競技会を計画

スピードスケート

来年三月、札幌、軽井沢、日光などで日中スピード・スケートの親善競技会が開かれる見通しが濃くなった。

これは中国の国慶節に招かれていた日中友好協会正統本部の荒哲夫・北海道本部会長が語ったもので、中国体育総会としても、歓迎している。十月末からAA卓球大会（北京）に同行している日中文化交流協会の村岡久平事務局次長を通じて具体的な話がまとまるもよう。

中国はIOCに加盟していないため、現在、五輪には参加できないが、ISU（国際スケート連盟）のメンバーであり、日本との交流に問題はない。また台湾はスケートのIFに加盟していないので、この問題でも具体的障害はない。日本のスピードは六六年に鈴木恵一、斎藤幸子らが訪中している。また長野県連盟も、村岡氏を通じ、来年早々、中国招待の交渉中。

米国は復帰支持

オリンピック〝焦らぬ〟と中国側

IOCは〝台湾追放できぬ〟

ミュンヘン組織委は中国も招待

この中国オリンピック復帰について、ミュンヘン五輪の組織委会長ウイリー・ダウメ氏は「組織委が、中国にも招待状をすでに発送した」と語った。（ミュンヘン十月二十四日AFP＝時事）

しかし、今秋のIOC総会はケニヤ代表の提案を審議したものの「中国は台湾を除外することを条件にしているが、IOCは台湾を追放できない」として中国が申し入れてくれば別だが〝勧誘〟はしない」と決めた。

中国のオリンピック復帰についての情報も活発化している。

AAU（米国体育協会）のジョンAB・ケリー会長は、十一月九日、レークプラシッドで開かれた総会の演説で「来年のオリンピック（ミュンヘン）は世界の五分の一が欠けたままの大会になる。われわれは八億五千万の市民の代表を支持しなければならない。各国際競技連盟に派遣される代表は、中国の加盟申請を支持するという、米国代表としての意志を明確に打ち出してほしい」と要望した。

中国は一九五八年〝二つの中国〟に反対してIOC（国際オリンピック委員会）を脱退、同時にほとんどのIF（国際競技連盟）からも脱退した。現在、加盟しているのはスケート（スピード、フィギュア）アイスホッケー、卓球だけ。

一方、今秋、訪中した日中国交回復促進議員連盟の塩谷一夫氏（自民）は、帰国後の記者会見で、中国滞在中に王暁雲・中日人民対外友好協会常務理事と会談、オリンピック復帰について話し合った。

王氏は「中国はあせらない。台湾がIOCのなかにある限りは、中国としては、きびしい態度で臨まねばならず、今後の情勢を見守る」と述べた。

ばどみんとん昔むかし

衝撃！ルール改正知らず

不足の情報網　国体直前に「えッ」

〈連載　第一回〉



戦後、ものが不足していた時代には、選手たちが、痛んだシャトルの中から、いいハネの部分だけ抜き出して、ていねいに植え変えて使ったものだ――こんな話を、先輩、ベテランの人たちから、よく聞く。

日本バドミントン協会が誕生してから、早くも四分の一世紀がすぎ去った。わが国のバドミントンの歴史は、他のポピュラーな競技にくらべると新しいがそれでも、四分の一世紀たてば、赤ん坊が大学を卒業して、立派な社会人になる。

それなりの足跡をふり返ることは、今後の発展のために、欠かせないことでもある。

本誌創刊以来、多くの先輩各位からは、古い時代の話も載せろ、という要望が強かった。そのうちに、と考えているとき、たまたま、岩手県の八木橋副会長から「むかしむかし」と題する原稿が舞い込んできた。

一読、すこぶる面白い。よしというので、編集部も長期のかまえで、連載することにした。執筆者は、随時、交代していただく予定だ。（編集部）

岩手県協会副会長
八木橋　伸夫

あれは今から二昔（ふたむかし）も前の話。名古屋国体まで、あと一週間と迫り、出発を目前にして篠練習中のことである。当時の全日本の覇者の岡淳一選手（横浜）が、たまたま盛岡を訪れた。

その前年の東京国体にオープン参加したのみの体験しかなかったし、他県との交流とか、その他の大会など見たこともないわれわれに、誠にショッキングな話がもたらされた。

「今までレシーバーは自由にサービスを打ち返しておったが今度の国体からは、必ずサービス（レシーブ）コート内において、両足を床面に固着して打ち返さねばならない」

二、三日後に臨時列車で出発という時点での、このルール改変は大きなショックであった。

それでもわれわれは、国体にのぞむ前に、それを知り得たことを、むしろ喜びもし、かつ、感謝した。岡選手に、さっそくコーチを依頼し、にわか勉強したものである。

当時の日本協会といっても、こうした情報の連絡は完全ではなかった。

本部も地方も草創期で、それが取り立てて非難されることもなく、新知識や情報を吸収するために、われわれは全く真剣な気持ちで、その後の諸大会に、きそって参加した。

国体会場に並べられた新型ラケットやガット、その他の付属品も、これ皆すべて新知識であり、時代の先端をゆくトップモードであった。

各選手の新技術に舌をまいて驚き、帰県してからの国体報告会の話題の中心とした。そして、見よう見まねで新技術の伝達をすることが、暗黙のうちに国体選手、監督の任務のようになっていった。

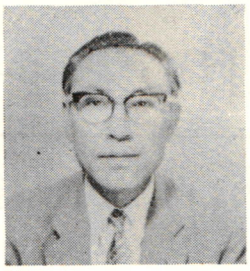
ところで、名古屋でこまったのは夕食であった。

あのオツにすました、いわゆる「おすまし」は、東北人の日常の食卓習慣にはない。客膳とか料亭ではお目にかかるのだが、毎日の夕食に出されると、ものたりなくて食事も進まないうしだい。これがまた、広島の旅館にはいって、ダーとなった。

広島の味噌は、盛岡の味とほとんど同じで、適当にしょっぱく（塩辛い）もあり、せっかく持参の味噌も不要。というと、茶館に寄贈（というほど、おおげさでもないが）してきた。

以来、各地の国体に出向いた

広島の味は故郷の味
ミソつけた持参のミソ



味噌（ミソ）と豆腐（とうふ）を買わせ、旅館から大鍋を借りてタップリと豆腐汁を食わしたことである。お新香も同然であった。

そこで、翌年の広島国体の時には、例の米のほかに、各自の家庭の味を、というわけで、アルミの弁当箱に、それぞれ、味噌を携行（けいこう）させた。

今のように、いろんな味噌が市販されているわけではなし、結局、各家庭の手作りの味噌と

が味噌の携行はやっていない。

さて、話を元に戻そう。

レシーバーの両足固着の問題であるが、プレーヤーなら、やってみなくても、話だけで、すぐおわかりいただけるであろうまことにきゅうくつであり、サーバー有利なルールである。

サーバーのフット・フォルトと同列に解したゆえの誤りだったのではなかろうか？

ロング・サービス・ラインの上や、外に立っての返球が出来ない。ショート・サービスも警戒しなければならない。

結局、サービス・コートの中央辺に位置して待機することになる。そして、イザとなると、まず機敏に移動し、床面を見てラインを確かめ、みずからの位置を定め、両足を床から離さず、上をみてサービスを打ち返すというしだいである。

今から考えると、なんともハヤ、間の抜けたような話だが、その時は、それなりに真剣に取り組んだのである。

ところで、この文を綴りながら、私は、ふと重大な疑念を抱いた。今、書いたことは、私一人の白昼夢か、あるいは記憶ちがいか、そんな事実は無かったといわれるかも知れぬ。古い想い出の中のひとコマが狂っているのかも知れない。

オールド役員の、どなたかのお話も、うかがってみたい。事実だったとすれば、いつごろから現行のようになったのか。日本協会のみの解釈だったのか。

むかし昔の想い出のよすがにどなたか御寄稿下さいませんかそれから、むかしの選手の、その後の消息を伝える企画を、編集子にお願いします。

編集部から——この新連載の読みものに対する反響、関連する想い出をどしどしお寄せ下さい。



トヨタ自工，8度目の栄冠

―― 男子団体　女子は百十四銀行が初

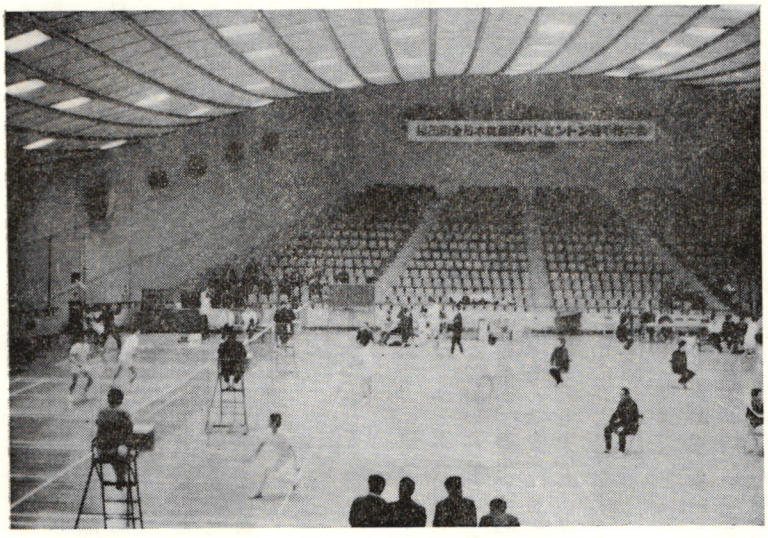
第21回全日本実業団選手権

第21回全日本実業団選手権大会は、七月四日から九日まで、本州の南端、鹿児島市の県立体育館、鹿児島南高体育館の両会場で行なわれた。

鹿児島は来年の国体開催地であり、この大会は、そのリハーサルの意味をこめて開催された。参加チームも年々ふえ、男女のべ91。選手は個人戦のシングルスだけで、のべ一九八人。全体では約四百人にも及んだ。

メーン・エベントの団体戦男子はトヨタ自工が断然強く、決勝で電々東京をくだして、二年ぶり8度目の優勝を飾った。女子は百十四銀行（香川）が初優勝した。前回の勝者・琴平電鉄（香川）は準々決勝で敗退。

個人戦の男子シングルスは今春、学窓を巣立った本間（トヨタ自工）が初の栄冠を手にし、女子シングルスはユ杯代表の湯木（河崎）が優勝した。



カット写真は今春の第20回大会（高松市）のスナップ。野口利行氏提供

▽…男子団体…△

▽四回戦　トヨタ自工（愛知）3―0日立水戸（茨城）、日田市役所（大分）3―0日本石油（神奇川）、北辰電機（東京）3―1石川島播磨（東京）、高岡市役所（富山）3―0住友金属（和歌山）、河崎ラケット（東京）3―0電々近畿（大阪）、名鉄（愛知）3―0三菱重工横浜（神奇川）、不二越（富山）3―1国鉄北海道（北海道）、電々東京（東京）3―0横浜市役所（神奇川）

▽準々決勝

トヨタ自工 3（単1―0 複2―0）0 日田市役所
高岡市役所 3（単1―0 複2―0）0 北辰電機
河崎ラケット 3（単3―0 複1―1）1 名鉄
電々東京 3（単1―0 複2―0）0 不二越

▽準決勝

トヨタ自工3―1高岡市役所

安沢 1（2―15 2―15 8―15）2 関村
牛島 2（15―2 15―6 15―8）0 林○
P板垣 2（15―6 15―8）0 河村
本間 2（15―6 15―4）0 宮林
○松島 2（15―4 15―6）0 宮林
○本間 2（15―3 15―6）0 今泉

第一ダブルスは、出だしのようすでは、安沢組の楽勝に見えた。しかし第二ゲームにはいると、スマッシュやハーフ・ドライブが一向に決まらなくなり、それまで相手の手のうちを見ていた岡村組が、俄然、攻撃にまわった。ファイナルも安沢組いっこうにさえないままに終わり高岡市役所は貴重な先制ポイントを手にした。

だが、第二ダブルス以降は、やはりトヨタのものだった。板垣組―河村組のダブルスは、激しいラリーが続き、白熱したが結局、板垣の安定したつなぎ、それに合わせた本間のタイムリーなスマッシュがきいた。シングルスでは、さらに両チームの〝距離〟がはっきり出て、官公庁NO1の高岡市役所も、決勝に残ることができなかった。

電々東京3―0河崎ラケット

○池田 2（15―12 15―2）1 鈴木 落合
○星野 2（15―9 15―8）0 森谷 平井
○鈴木 2（15―0 0―0）0 落合

第一ダブルス、スタートの鈴木組はさえにさえていた。それだけに第二ゲームで、むざむざと反撃を許したことがわからない。また逆に落合組も、第二ゲームであれだけやれるものなら、どうして第一、第三ゲームでもう少しまとまったスコアをとれなかったかと、疑問が残る

サービスとそのリターンの瞬間のかけひきに、そのカギがあったようにも考えられる。

第二ダブルスは、力の電々ペアが技の河崎をねじふせたような印象が強く、第三試合のシングルスも、落合には、もう少しすて身でもよいから、食いついてほしかった。1点もとれなかったとは意外。

▽決　勝

トヨタ自工3―1電々東京

○板垣 2 (15 15―7 15―11 11―15) 1 森谷量
○本間 2 (15 15―5 12―15 5―0) 0 星野○
○板垣 2 (15 15―8 4―15 15―2) 1 鈴木○
○本間 2 (15 15―7 9―15 7―0) 0 池田

団体戦随一の激戦となった。第一ダブルスは森谷組、例によってなぐりまくり、板垣組その激しさをもて余した。第二ゲームにはいると森谷組にいささか打ち疲れが見え、トヨタ・コンビのうまさが調子に乗った。10を越えるあたりから、森谷組が腰くだけのようになり、そのペースが最後まで続いた。ここでポイントを失ったことは、電々の優勝を遠いものにした。

ただ、第二ダブルスは電々の一方的勝利、ことに池田のつなぎが絶妙だった。

シングルスの板垣はト杯選手時代と変わらぬ力を発揮した。正確なロングとショート、不屈の闘志は、星野のなぐり込みを着実にハネ返した。最後のシングルスは、結局ウイニング・ショットを持つ本間が順当に勝ったが、池田のくいつきも立派であり、いま一つの武器と、それをこなす自信を持っていたら、勝敗は予断を許さぬものになったろう。

電々、第一複が命取り

▽…女子団体…△

準々決勝

電々東京 3 (単1―0 0) 0 琴平電鉄(香川)
(東京) (複2―0)

トヨタ自工(愛知) 3 (単1―0 0) 0 スワロー化研(大阪)
(複2―0)

準決勝

電々東京3―0トヨタ自工

○土井 2 (15―10 15―3) 0 橋本
奇良岡 池田

○阿久津 2 (15 15―1 15―7) 1 竹中
藤井 紅谷

○奈良岡 2 (11―12 11―10) 0 橋本

百十四銀行3―0北辰電機

○小西 2 (15―12 15―7) 0 山上
福本 横田

○山本 2 (18 15―14 15―5) 0 天野
赤沢 高橋

○小西 2 (11 11―6 14―6) 0 横田
福本

▽決　勝

百十四銀行3―0電々東京

○山本 2 (15 9―11 15―6) 1 土井
赤沢 奈良岡

○小西 2 (15 15―11 11―0) 0 阿久津
福本 藤井

○赤沢 2 (12 11―10 12―0) 0 土井

準決勝でトヨタ自工の食い下がりを振り切った電々東京と、百十四銀行の対戦は、ともに1点ずつ取り合ったあと、百十四銀行が第二ゲームを15―3とリードしたが、電々東京が15―10で取り返し、第三ゲームは15―1で百十四銀行が勝ち、第四ゲームは15―7で電々東京が取り返し、第五ゲームは15―11で百十四銀行が勝ち、3―2で百十四銀行が決勝戦に進出した。

〈大会を終了して〉

丸山嘉久

第27回国体の開催地が鹿児島県に決定した時点で、昭和四十六年度の全日本実業団バドミントン選手権大会は、これまでの慣習上、主管することになるものと想定して、その実施についての可能性を、幾度となく討議した結果、本年三月初旬、実施の能力なしとの結論を出して、理由を付してその旨正式に、日本協会へ連絡しました。

これに対し急拠、日本協会より伊藤基記常務理事、日本実業団連盟より増井理事長並びに並木副理事長の三氏が、説得のために鹿児島に来られ、種々意見交換の結果、ようやく実施の決心がついたのが三月二十四日でした。準備期間は正味三カ月、正直なところ、大会終了まで無事に切り抜けられるか否か、全く自信はありませんでした。

閉会式の最後に、大会委員長に代って閉会宣言をし終えたとき、はじめて正気を取り戻したと申しても嘘ではありません。

競技日程の初日には十時、十一時の終了になり、男子の二日目またしても十時になり、一体どうすればよいのか、初めての苦しい経験でした。

しかし、このような事態の中にあっても、選手諸君よりは何の苦情もなく、試合にかける情熱には、いささかの影響もないかの如くプレーされたことに対しては、ただ頭が下がるばかりでした。そして、実業団連盟の諸氏が、積極的指導的に、大会運営の実務に参加して頂いたことに対しても、感謝でいっぱいでした。

関係各位のご協力にただ感謝

たしかに、この大会は規模の上でジャンボ級であり、内容的には、もちろん日本最高のものであって、取り組む側にとっては、二の足を踏む心境になりますが、いざ土俵に上ってみると前述のように、選手役員の協力のおかげで、気持よく相撲がとれることがわかりました。

今後、この大会の参加者数や競技日程等、若干検討してほしい点はありますが、鹿児島県協会のような弱小協会であっても、県や市との協力と、自協会員の決意とによって、実施は必ずしも不可能でないという気がしております。

来年度国体においては、大会運営の面でも、独り歩きができるようになるものと思います。

最後に、全国より参加された皆様に対し、行き届かなかったことを深くお詫び致し、さらに皆様の今後の御健闘を祈ります。

（鹿児島県協会理事長）

北辰電機を押えた地元・香川の百十四銀行が優勝を争って対決した。勝敗の分かれめは第一ダブルス。大接戦のすえ、山本組が辛勝したが、どちらが勝ってもおかしくない一戦だっただけに、この先制ワン・ポイントが心理的に電々東京を押え込んだといえる。第二ダブルス、第一シングルスの各第二ゲームは、よくせり合い、技能的には電々東京にも反撃のチャンスは、十分ありと見えたのだが。

▽…個人戦…△

一般男子シングルス

▽準決勝

今泉（高岡市役所）2（1515—8）1鈴木（電々東京）
2—1015

本間（トヨタ自工）2（1515—5）0宮川（河崎ラケット）
1514—0

▽決勝

本間 2（1515—2）0今泉

◇一般男子ダブルス

▽準決勝

河村、今泉（高岡市役所）2（1515—4）0川上、池田（不二越）
1513—3

堺、平井（河崎ラケ）2（15151—10）1伊村、樋口（名鉄）
10—3—15

▽決勝

河村 今泉 2（1515—8）0堺 平井

一般男子単は、決勝まで気の遠くなるような、長い道程である。熱砂の中を、テクテク頂上めざす登山に似ている。

今泉はとうとう決勝まではい上ってきた。そしてエース本間に噛みつき、食い下がった。二人ともよく粘り、よく拾い、タイムリーに鋭く速いスマッシュを送る。

似たようなプレーヤーであるが、本間の天性からくるリーチと予見のよさが上回り、しかも本間には準々、準決と体力を温存してきた有利さがあった。第一ゲームで今泉は燃料がつきたが、健闘をたたえたい。

相沢、決勝で力つきる

◇一般女子シングルス

▽準決勝

相沢（ヨネヤマ）2（1111—0）0岡崎（三菱自工）
4—0

湯木（河崎ラケ）2（1111—0）0森（百十四銀行）
3—0

▽決勝

湯木 2（1211—11）7 0相沢

◇一般女子ダブルス

▽準決勝

工藤、紺野（豊田織機）2（5515—8）1井上、園浦（琴平電鉄）
9—1215

湯木、鈴木（河崎ラケ）2（181211—13）1池田、大竹（三菱電伊丹）
218—1514

▽決勝

湯鈴木 2（1515—1）1工藤 紺野
3

◇混合ダブルス

▽準決勝

堺、湯木（河崎ラケット）2（1515—5）0山本、山上（北辰電機）
6—0

池田、阿久津（電々東京）2（1515—5）0星野、土井（電々東京）
（棄権）

▽決勝

堺 湯木 2（15 8—2 15 9）1池田 阿久津
15—9

◇三十歳以上シングルス

▽決勝

川上（不二越）2（1515—4）0遠藤（日本鋼管）
2—0

◇同ダブルス

▽決勝

大野、堺（十条製紙）2（1515—5）0遠藤、青木（日本鋼管）
8—8

◇四十歳以上シングルス

▽決勝

浜中（丸善石油）2（1515—5）0中島、松山（大村市役所）
5—5

◇同ダブルス

▽決勝

後藤、井沢（名鉄）2（1815—1612）0佐々木、松永（国鉄後藤）
1—0

モットー　試合に参加する時は、職場から気持ちよく送り出してもらえるよう〝仕事には、バドミントンでつちかったファイトでぶつかれ！〟部員である前に、よきトヨタ・マンであれ〟を合い言葉としている。

戦績　ごく手短かにご紹介しよう。遠くは社会人として最高峰の全日本実業団選手権において第一回—第三回大会の女子団体連続優勝、近くは第十三回—第十九回の七年連続男子団体優勝。一回おいて第二十一回大会男子団体優勝。

現状と将来　過去数年間「トヨタに小宮・板垣あり」といわれ、よきにつけ、あしきにつけ、余りにも二人の存在が強く「おれ達が負けても、二人にまかせておけば大丈夫」という安堵感があったのは、認めざるを

〝仕事にもバドの斗志で〟

数多い人材

力強く「小宮の板垣」依存から脱皮

沿革　昭和二十三年、酒巻部長（ブラジル在住）が、アメリカから用具を持ち帰り、戦後の荒廃した社会に潤いを与えようと、工場の片隅で打ち始めたのが、トヨタにおけるバドミントンの歴史の第一歩である。

少数の部員で発足し、迂余曲折の二十余年を経て、現在に至り、現役十五名、OB十五名を擁する部に成長した。

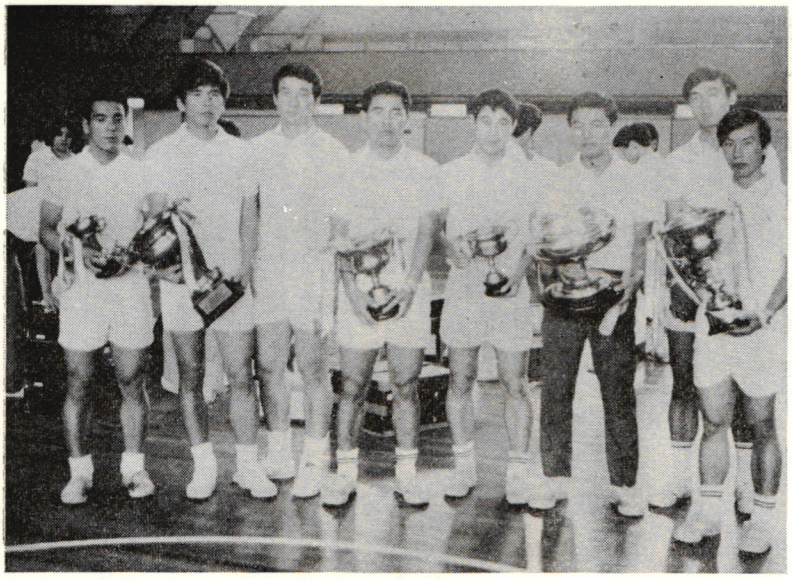
私たちのクラブ
〈トヨタ自工〉
愛知県

得ないだろう。

だけど、いまは違う。過渡期を迎え、選手の顔ぶれも一新されようとしている現在、若手の本間、牛島、松島等が、持てる力を十二分に発揮しないことには、勝利を導けない。

選手層の平均年令二十一才（男子のみ）は、何を物語るか。若さの一言に尽きるが、まだまだだ。若さが技（わざ）に屈せられるけねんがある。

柔と剛の二面が、ほど良くミックスし、臨機応変さが、随時随所に、発揮できるプレーヤーの育成に力を注ぎたい。



▽エース本間（右から二人目）をトップに一騎当千の猛者ぞろいのトヨタ自工

プレーヤーの横顔

板垣　善憲　立教大学出身、三十才、三十八年入社。フットワーク、タマの読みは、天下一品であり、日本でも数少ない名プレーヤーである。対戦相手にとっては、名前を聞くだけで、試合を放棄したくなるプレーヤーだ。

バドミントンの鉄則とは何か、は板垣選手のプレー。すなわち「つまらないミスはしない」「最後までタマに喰いつく」を見れば、一目瞭然である。

小林　一宏　伊勢工業高校出身、二十六才、三十九年入社。当社のキャプテン。観客をひきつける派手さはないが、一歩一歩、険山を征服するがごとく堅実で、真面目なプレーには定評がある。若手選手は見習う必要が大いにある。

本間　順次　中央大学出身、二十三才、四十六年入社。社会人一年生。教育、実習の連続で、トヨタの社風になれるため苦労している。プレーに関してとやかく書くまでもなく、我国のトッププレーヤーであるが、日本のバドミントン界、トヨタの明日を担って立つ選手だけに、種々の重圧にも耐えうる強固な精神力、忍耐力に加え、統率力の養成が今後の課題である

牛島　秀雄　富山商業高校出身、二十三才、四十二年入社。恵まれた体力に、恵まれた素質、トヨタを背負って立つ条件は立派にそなわっている。ただし相手によっては（試合巧者）自分の力を発揮せず終わるというケースも、しばしば見うけられる。豪快の中にも、繊細な一面をのぞかせるプレー、頭脳的プレーを習得すれば、鬼に金棒。期待のかけられる選手。

松島　保　富山商業高校出身、二十二才、四十三年入社、若手成長率NO1。ここ一年間の成長には目を見はるものがある。大選手との対戦後は心らずず何かを学び、吸収しようとしている姿は、頼もしい。最近になって、とみに考えるプレーとは何かがわかってきたようだ。さらに拍車をかけ、いい意味でのずるさ、かけ引きというものを学べば、遠からずトヨタの大黒柱になるのは間違いない。

東浦　秀二　伊勢工業高校出身、十九才、四十五年入社。〝さんしょうは小粒でもピリッと辛い〟という言葉がピッタリあてはまる選手である。豪快さは見受けられないが、板垣選手譲りの、あのねばっこさに、さらに練習で磨きをかければ頼りがいのある選手になる。

松島　信之　富山商業高校出身、十八才、四十六年入社。さきの松島保の弟である。プレーを見れば若さに満ち溢れ、さわやかで清涼度満点である。兄貴ほど体力には恵まれていないが、気迫、ねばっこさでは、兄貴にまさるものを持っている。まだまだ高校生のプレーから脱皮できず、未完の器ではあるが、本人のやる気も充分であり、大いに期待をかけている。

待たれるスポーツ公園の完成

練習時間と内容　名古屋から一時間で到着する偉大な田舎が、我々の第二の故郷。美しい緑と、清流に恵まれた豊田市。我々部員は、本社工場を始めとし、とりまく巨大な五工場に分散している。勤務形態の違い等があり、練習時間（十八時～二十時三十分）も十分でない。加えて練習会場（三面）は、小学校の体育館を間借り、しかし、恵まれた条件下で練習を積み重ねるだけが、勝利への最短距離ではない。逆境の中から、はい出て得る勝利こそ真の勝利であり、最も尊いものと思われる。とはいうものの来年度に完成すると思われる民間企業最大のスポーツ公園を首を長くして待つ昨今である。（杉政和男）

クラブ活動と勉強は両立するか

クラブ活動と勉学は両立するだろうか――さきごろの本誌上で、読者からこんな疑問が寄せられた（「読者の広場」）をおぼえている方々も多いことだろう。

投書の主は「両立はとてもむずかしいことで、私たちは苦しんでいる。みなさんは、どういうふうにやっているだろうか」と述べていた。

そこで編集部は今夏の全国高校選手権大会のおり、日本協会広報委員会をわずらわして、参加選手の一部から、別項のようなアンケートをとった。

その答えのほとんどは「簡単に両立できるものではなく、目下の自分は、両立できているとはいえない」だった。

しかし、むずかしいからといって、そのままにしておいてもいい、問題ではない。このため回答者たちは「両立するよう努力したいし、するつもりで」とつけ加えている。

以下、回答を紹介しながら、関連する問題について考えてみることにした。

× × ×

ことしの夏、東京で続々と開かれた全国中学生大会。この優勝者や上位に進んだ選手たちは、ほとんどが、勉強の方でもトップ・クラスだった。

バレーボール男子の優勝校、東京・鉢山中のチームには生徒会長と副会長がいた。卓球やバスケットでも、上位の選手はほとんどが「優等生」か「クラスで少くとも五番以内」だった。

体操女子で全国四位となった多度津中のある選手は、知能指数が実に四国で一番だった、といわれる。

中学から高校に進めば、クラブ活動は、さらに中味が濃くなり、レベルも高くなる。しかも勉強もきびしくなる一方だから〝両立〟は、さらにむずかしいだろう。

しかし、高校女子バレーで、いまモントリオール五輪（ミュンヘンのつぎの大会）最大のホープといわれる秋田・角館南のエース荒木田選手は、やはり中学から一番で通し、卒業を前にスカウト攻勢に悲鳴をあげる最近でも「ちょっとさがりぎみで、全校の四、五番目」を保っている。

ある先生は、胸を張って、こんなふうにいっている。

「クラブ員の成績がいいのは当然ですよ。スポーツをやるには〝頭〟が必要ですからね、すぐれた選手は勉強でもすぐれています。

もちろん、私たちも選手の勉強に目を光らせていて、成績が下がれば、勉強の機会を与えるため、クラブから外します。クラブ活動も〝教育〟のひとつですから、両立させるのが当然だと思いますよ」

おそらく、このへんが、常識

両立は可能だ

短時間で能率あげよう……

頭脳も優秀なのだ〉

〔質問〕

①あなたは、部活動と勉強は両立できるものだと考えますか

②現在のあなたは両立できていると考えますか

③現在のあなたの練習時間を記して下さい

④現在のあなたの勉強時間を記して下さい

⑤あなたは、いままで、どのように部活動と勉強を両立させる努力をしてきたか、まだどのように両立させる努力をしていくか、あなたの意見、考えを記して下さい

☆ ☆ ☆ ☆

奈良市立一条高
バドミントン部

① 簡単に両立できるものではない

② 両立しているとはいえない

③ 練習日は週に日、時間は午後時の時間。

④ 勉強時間は午後10時から11時半の約1時間半。

⑤ 帰りが遅くなって、家ではあまり勉強できないので、授業時間を大切にし、先生の話をよく聞き、休み時間に、その授業の内容を簡単に整理して、家で軽く復習できるように努力していきたい。

県立山形工高
三年 佐藤誠

① 簡単に両立できるものではない

② 両立している

③ 練習日は週に7日、時間は午後3時半から7時

④ 勉強時間は午後10時から11時の1時間

⑤ 努力も大いにしなければならない時期なのに、ついクラブの方に時間をとられがちだ。それを取り戻すためにも、いかにして短時間で能率のよい勉強をするかということを考えてやっている。また、クラブ内でなら、同じ条件のもとに勉強の競争ができるので、プレー上の技術面だけでなく、成績の方でもライバル意識をもやしてがんばっている。

県立高松商高
三年中原敏和

① 簡単に両立できるもので

むずかしいが

……授業復習を完全に

〈一流選手は



はない
② 両立しているとはいえない
③ 練習日＝週に7日、時間は午後4時―7時
④ 勉強時間＝午後10時から11時の1時間
⑤ 家庭での勉強時間が少いにもかかわらず、いつも寝入るのが午前1時を上回る。これからはスポーツ選手として運動と勉強を両立させる努力として、睡眠を十分にとるように心がけたいと思っている。

県立善通寺一高
三年大矢根靖子

① 簡単に両立できるものではない
② 両立しているとはいえない
③ 練習は週に7日、時間は午後2時から6時まで
④ 勉強は午後10―12時時の約2時間
⑤ 授業中を大切にする。一日最低二、三時間は勉強する。時間は少くとも、内容の濃い勉強の仕方をする。

県立善通寺一高
三年　白玖里子

① 簡単に両立できるものではない
② 両立しているとはいえない
③ 練習は週に7日、午後3時半から7時。夏休みは2時から6時。
⑤ 勉強は午前4時から7時（休みのとき以外）
⑤ 部活動をしていると、人より勉強時間が少いので、短時間で能率があがるようにする。むだな時間がないように、てきぱきとする。

四条畷学園高
三年秋本八代美
西尾真理子

① 十分に両立できるものだ
② 両立している
③ 練習は週7日、午後4時から7時
④ 勉強は約2時間
⑤ 家での勉強時間が少いので、努めて授業中、先生の話を聞くようにしています。

的な考え方だろう。しかし、ものごとは、なんでも現想どおりにはいかない。だから、選手たちの悩みも出てくるわけだ。

両立――といっても、どのレベルを指して両立というか、それ自体が問題だが、その前に、まず、わがバドミントンで、高木紀子選手の話を聞いてみよう。高木さんは、高校時代、つねに成績優秀で、卒業のときには生徒総代だった。

「私は最初から、両立しなければいけないし、できるはずだと考えていました。そうでないと、クラブ自身が白い眼で見られかねないし〝スポーツなんかばかりやっているからだ〟といわれてしまうからです。それでは私たちのスポーツの発展は望めません。

では、具体的にどんな努力をしたか。そう聞かれても、格別のことはありませんでした。練習が終わって家に帰り、食事をしたり、風呂にはいったり、雑談したりすれば、十時前に机に坐ることはむずかしい。

だから、私は授業を大切にしました。聞きのがしたり、わからなかったことは、職員室に押しかけても、自分がなっとくするまで質問しました。家では約二時間の勉強でしたが、もっぱら復習に費しました。その日のことは、その日のうちに片付ける――これを実行しました。復習が充分なら、予習がなくても頭の通りは悪くないはずです」

さて、今回、高校の皆さんから寄せられたアンケート。一番、興味があったのは「授業を大切にする」という態度だった高木さんと同じで、教室で完全に頭にはいっており、それを忘れなければ八割以上、勉強はOK。宿題も当然、あるだろう。しかし、これも復習過程がきちっとしていれば、そんなに頭をひねらなくてもいいはずだ。

もちろん、それでも努力は必要だ。だから、日常生活の中でなにかは犠牲にしなければならない。テレビも見たい、音楽も聞きたい、本も読みたい、おしゃべりもデートもしたい……できれば、それに越したことはないが、時間がないのに欲ばってもダメ。皆さんはバドミントンの練習を充実させることで、もうすでに充分、むくわれているはず。練習と勉強だけではうるおいがなくなるだろうが、それなら短時間に集中的に、何事もパッとやるしかない。

コートへの長い道

—走りはじめた竹中悦子選手—



片桐真佐紀（インタビュアー）

十月のある朝——日本海を吹きぬける風はもう冷く肌をさす

真夏の群衆が立ち去ってしまった浜辺は無気味なくらい静寂だ。そこはあたかも、興奮のるつぼだった大競技から人影が消え去った時の偉大な空虚を惑じさせる。

時おり寄せては返す波の音が、拍手と歓声となってよみがえって聞こえる。

午前七時。かぎりなく続く砂浜に一人の足あとが力強くしるされていく……。

竹中悦子選手がまっしぐらに走る孤独で自由な長い道である

失なわなかった明るさ

●白い壁

モントリオールで襲った左足のケガは半年の間、彼女を痛めつけた。帰国後、故郷の石川県に戻って入院すると、彼女には苦闘の毎日が始まった。ギプスで固定された足は動かすことができず、ただ、じっと見つめているだけだった。

バドミントンが生活のすべてをリードしてきただけに、こんなに味気ない生活が想像できたであろうか。

しかしながら、彼女の明るい性格は闘病生活を、決して感傷的なものにしなかった。入院二日後に、ギプスで固められた重い足をひきずりながら、ロボットのように、のっしのっしと歩き出し、療養者との語らいの場を見つけた。

そこには、自分よりもっと、もっと苦しい闘いを、余儀なくされている人たちがいた。彼女は、壁に手をかけて静かに足を運んでいる老人に、やさしく手をさしのべたり、頭を白い包帯で巻いている少年と、親しく言葉を交わした。

他人からみると、その姿はあまりにも痛ましく、もの悲しさを感じたが、彼女は自分で、病院生活の暗い環境を、払いのけてしまうように、努力しているのが感じられた。

●本と人形

月日がたって、ようやく、ギプスがはずされたかと思うと、その喜びもつかの間、新しい苦しみが待っていた。ヒザを曲げるには、涙の出るような痛みがともなうことを知ったのだ。

今までとは比べようもない、きびしい闘いが始まったが、それでも、彼女の陽気さは、少しも失われなかった。入院以来、たくさんの人々が見舞いに訪れたが、むしろ、その人たちの方が励まされて帰る日もあった。

療養生活の貴重な産物は、思いきり本を読み、存分に考えるチャンスが、持てたことだ、という。

部屋の棚には、トレーニングの専門図書とともに、色とりどりの書物が並んでいた。「わが心は石ならず」「氷点」「白きたおやかな峰」「青春の蹉跌」「さびしい王様」など、平素、読みきれなかった図書を、もののみごとに読みあげてしまった。

ただ、時々、枕元においてある赤ちゃん人形を、じっと見つめている時は、自分の苦しみを語りかけているようにもみえたが、病床において彼女は、ますます、よく考える人となった。

●女子ダベリス？

からだまでが溶かされそうな暑い夏のある日、遠路はるばる訪れた珍客に、病室は一度に花が咲いたように、にぎやかになった。名パートナー相沢マチ子さんのご来訪である。

四年近くの長い間、朝から晩まで共同生活をしてきて、お互いの顔も見あきたような〝親分（竹中さん）〟と〝コンブ（相沢さん）〟の対面は、本当に久しい。

さっそく、お得意の〝いじわる合戦〟が始まる。話に熱がこもると、蜂の巣をつついたようになって、手真似、足真似がはいってくる。非凡なダブルスの妙技を展開する二人であるが、こんな時は、平凡な若い娘となって、大いに笑い、バリバリ食べる。

空白を新しいエネルギーに

後世に不出であるとまで讃えられた二人のダブルス・プレーは、このような、のどかな語らいの中から、生まれてくるのではなかろうか。

数多くのバドミントンファンは、この二人が、一日も早くコートに立って、スポーツと芸術の接点を披露してくれる日を、待ちあぐんでいるが、だれよりも、彼女のカムバックを祈っているのは、パートナーの相沢さんではないだろうか。

「〝親分〟とともに築いてきたものを、もう一度、思う存分、みがきあげてみたい。このブランクの中にも、かえって、かけがえのない意外性が生まれているかもしれない」と語る相沢選手の、胸の中にひそんでいるものが、なんであるかを推察する時、ほのぼのとした期待がしのびよってくる。

二人をよく知っている人が、「人一倍よく考える二人であるから、半年間の時間的空間が、新しいエネルギーとなって、より美しい、より強固なプレーをみせてくれることだろう」といったのが、よくわかる。

●「秋」

八月七日。約八十日間の入院生活に、ピリオドを打って、竹中選手は退院した。その後は通院して、マッサージや、電気療法などの治療が続けられ、順調に回復に向かった。

そして九月に入ると、むさぼるように、待ちわびたトレーニングが開始された。実に五カ月ぶりであった。

柔軟体操、なわとび、バーベル、ダンベル……トレーニングの専門家と、念入りに組み立てたプランに基づいて、一歩一歩着実にバドミントンの道にむかって、歩み始めた。自宅から病院、そしてトレーニングセンターへ――それが彼女の新しい日課となった。

それから一カ月目の十月一日には、いよいよ、ラケットを手にして、コートにおどり出た。

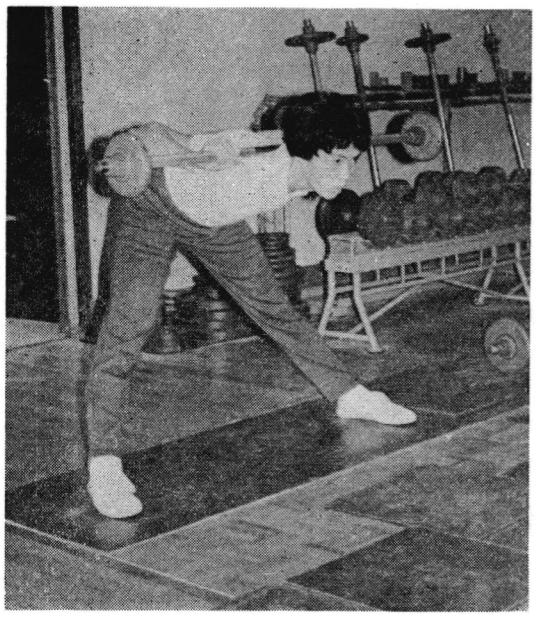
母校の二水高校で、後輩にアドバイスをしながら、シャトルを追う目は、底ぬけに明るい。こまかいバネが、いっぱいにこもっている、強じんな姿体は、美しい弓なりをみせてスイングする。

独特のダイナミックな動きと、コートに突きささるような、弾丸スマッシュは見られないが、シャトルは、砂鉄が磁石に吸いつけられたように、ラケットに捉えられていく。

「まだまだ以前の感じがつかめません。でも、きのうは動くのがこわかったのに、きょうは思いきり打てました」。血色のいい頬にえみをうかべて語る彼女は、すっかり、長い悪夢から脱皮しているようであった。

しかし、順調な回復とはいえ決して十分ではない肉体的条件のもとでの練習には、きわめて慎重で、綿密な方法がとられなければならない。

そして、どたんばにおかれた人間の弱さと、個々に与えられた苦悩を乗り切る強さとを、しっかり、とらえなければならない。いま彼女は、その大きな試練の場に追い込まれたのだ。



全日本やユーバー杯などについては、なにも語らない彼女であるが、栄冠は苦しみの極致にある、ということは、だれよりもよく知っているはずである。

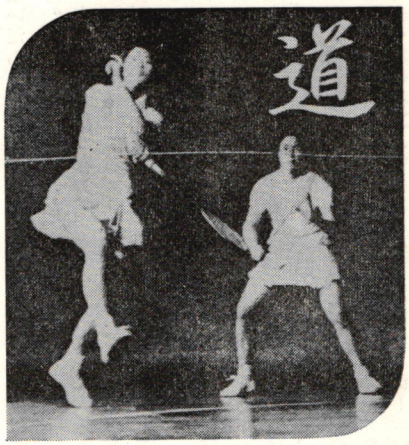
●夕陽と砂丘

大きな太陽が海に沈む頃、彼女は、また海に出た。きのう陸上競技場で出合った、競歩の第一人者・斎藤和夫選手に習ったランニングを復習してみた。そして、きょう一日を、ふりかえりながら走りつづけた。

〝走っている！　本当に走っているのだ！〟両脚で大地をけりながら、彼女は叫びたいことだろう。現在の彼女にとっては単にランニングをするだけでも決して楽な運動ではないが、一歩一歩、心をこめて走るその目には、スポーツの世界に帰ることのできた喜びが満ちている。

なつかしい郷里の大地は、彼女はをやさしく迎えてくれた。半年分が一度にあふれ出るような玉の汗を吸い込んで、サクサクと軽い音を刻んでいく。やや大きめのストライドでふみしめながら、目的地の〝だんご山〟にさしかかるころには、夕べの鐘が鳴りひびいていた。

あと一歩だ！がんばれ竹中！



完全なるものを求めて
新しい一歩のために生きる

竹中悦子

バドミントンとのつきあいも今年で十年目。親友よりも長い彼（？）とのつきあいだ。よくもまあ、あきもせずに…！

時々、試合に勝つためには選手としてのある程度の体力的限界はあると考えながらも、反面年令に制限なんてあるはずがないと否定して自分をたしなめる中学時代。どこのクラブの集会かも知らずに入った教室。それがバドミントンと私の出会いだった。

初めはバドミントン自体よりも、クラブ活勉という集団生活に興味があった。皆とはしゃぎ回り、騒ぎ疲れた頃ようやくシャトルを打たせてもらった。

シャトルをにらんで、力いっぱいラケットを振ってみてもシャトルの方でそれてしまう。まれにあたってもネットを越えるのがやっと。毎日、素振りも壁打ちもやったのに……。単純な私はムキになった。この時バドミントンをはじめて意識した。

県大会をめざした私たちは、いつの間にか先生の「お前たちは強いんだ」という暗示にまんまとのせられていた。

今から思うと吹き出したくなるほど、技術も何もあったものではなく、ただ自分たちは強いんだと思い込んでしまっていた。優勝した時はさすがに嬉しく、皆で飛びあがって喜んだが、先生は内心ヒヤ汗まじりにもホッとしたに違いない。

高校に入って、バドミントンが暗示だけではすまないものになり、毎日、暗くなるまで基本のくり返しばかりだった。がむしゃらに打ち、走った。でも私には知らないことが多すぎた。

三年間で最も印象深いのは、コーチと対立して二カ月以上も沈黙が続いたこと。コーチとは何か？　わがままで勝気な私は自分だけの見解で定義づけ、押し通そうとした。そして迷い、それが反発としか返っていかない自分にも腹立ちながら。

卒業後、新潟で新しい大学生活が始まった。毎日が息つくヒマもないほどに充実し帰ると、いことがある。それは彼女には色々な面が同居しているから。一見まるで男の子のようであるが、本当はすごく甘えん坊で、さびしがりやさん…

それでいて一本筋が入っていて、なかなか人間ができているところがある。時には末っ子のくせに姉さんっぽい。こんなことを思うと、彼女はいったいどんなタイプで、どんなことを考えているんだろう……と時々、頭を痛めることがある。

でも私はそんな時の彼女が一番、好きである。

お断わり　竹中選手がバドミントンを始めてから、今日までの半生記が、近くドラマとなって登場します。制作・石川テレビ、東京・フジテレビ系列で十二月二十六日に放映「ドキュメンタリー劇場」（カラー日曜午後十一時から三十分）の予定です。

（15ページ中央第三段へ続く）

『親　分』

相沢マチ子

私が初めて新潟で〝親分〟に会ったとき、情緒の豊かな人という印象が強かった。そして約四年間、共同生活をしているうちに、その豊かさにみがきがかかってきたように感じる。

彼女は常に考えることを忘れない。考えて人一倍、悩む。でも悩みが解決したあとで、生き生きとした彼女ができあがっていくのを、いつも見る。

彼女について今でもわからな

すぐ、その日に得たものに疑問や意見を添えてノートに取った。練習後のミーティングは筋肉と骨格、マッサージ法、運動生理、栄養管理、物理的理論、歴史、美術、音楽、文学などについて。

コーチの持つ広い知識や創造力を、一つも聞きのがすまいとして必死になった。でも、決して体罰は与えないが、なによりも痛くしめつけられるコーチの厳しい言葉には、何度かコートから逃げ出したくなったことか

今までの私のプレーと意識の甘さからくる言動は容赦なく打ち破られた。それでも今まで得てきた大切なものは決して逃がすまいと心に誓いながら……。

選手はコーチを、そして互いにパートナーを信じることから前進する。私はりっぱなコーチを得、すばらしいパートナーに出会ったことは、この上ない幸せだと思う。

「スポーツは自己を表現、主張する手段である」と教えられたとき、スポーツに対するある種の迷いが取り払われ、信念とすべきものを求め得たような気がした。

芸術は作る人の心を表現する。スポーツにもその人の生活態度、人間性、思考が自らの肉体に託して表現される。それは美に通じる。

一球一球に自分をこめてシャトルを打ち、走る。完全なものはあり得ないが、その完全なるものを求めて、執ようにしがみつき、苦しみ、葛藤して、一歩でも近ずこうとする。そうして勝つことは美しいと思う。強いと思う。

ある時、急に「根性」や「努力」「忍耐」などという言葉を口にするのがいやになったことがある。どうしてか自分でもわからなかった。

ところが、ふとした機会にその言葉のもつ意味の深さ、大きさが私にのしかかってきた。大声で泣き叫びたいくらいに、よくわかった。それは、その言葉を支えとし、信念とする人、そこまで極めた人が使う言葉であることを。

人が一生のうちに一つの言葉を信念として持てることは幸せであり、大切ではなかろうか。

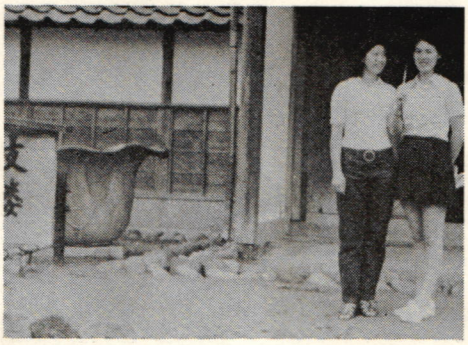
常に目的意識をもって、反省を重ねながら精進し、一刻一刻を真剣に、全力を集中することを、日々のうるおいとし、次の新しい一歩のために生きる自分でありたい。そして謙虚さをもってすべてに感謝する心を忘れずに、やむことなく一歩づつ歩みたいと思う。

メロンとアップル

〝マッチー〟〝コンブ〟（子分の意味から）の愛称で親しまれている相沢さん。〝親分〟〝ボク〟と呼ばれている竹中さん。四十三年に新潟青陵短大で二人が出会って以来〝親分・子分〟の間柄で大活躍、その名を世界にとどろかせてきた名コンビである。

食欲盛んなお年頃の二人、マッチーはメロン、親分はアップルが好き。フレッシュなフルーツはまさに二人のイメージにぴったりだ。現在、両嬢は東京のヨネヤマラケットに勤務している。

竹中選手は昨年のバドミントン全英選手権者。相沢選手とのダブルスは全日本選手権で昨年まで三連勝を続けている。



（28ページ左第三段から続く）

制作局・石川テレビほか次の26局で見られます。

▽フジテレビ▽東海テレビ▽関西テレビ▽テレビ西日本▽仙台放送▽広島テレビ▽札幌テレビ▽テレビ静岡▽長野放送▽富山テレビ▽サガテレビ▽福井テレビ▽秋田テレビ▽テレビ愛媛▽テレビしまね▽山形テレビ▽福井中央テレビ▽テレビ熊本▽テレビ長崎▽新潟総合テレビ▽テレビ岡山▽鹿児島テレビ▽テレビ山口▽テレビ大分▽テレビ宮崎▽沖縄テレビ

沖縄へ善意の寄託つづく

沖縄の仲間への援助運動は、さらに続けられています。このほど、別記の方々から、寄託がありましたので、つつしんでお受けし、ここに氏名を発表させていただきます。

本誌では、今後、当分の間、この運動を続けますが、日本協会は、広報委員会の企画で、十二月の全日本総合選手権のさい入場料金の一部に、寄付金を付けさせてもらうことも考えております。

最近、沖縄の審判講習会に内席した内藤・協会審判委員長の話では「本土との接点が国体しかないことが最大の悩みで、一般事業所でのクラブ活動は全然みられない」とのこと。

用具験、金品、多少のいかんにかかわらず、愛読者各位の善意をお待ちいたします。

〔寄託者氏名〕（敬称略）

▽金一万円　本田弘敏（日本協会会長）

▽金一千円　柴田　寛（富山県高岡市水楽町四―一九＝本読愛読者）

▽金一万七千円　日本協会常務理事会（森友徳兵衛、川端昇市、小宮淳宏、高倉正治、相場清一、五十嵐正信、市嶋智三郎伊藤基記、岡村英男、菊地利明佐藤芳朗、遠井稔男、内藤安雄並木万次郎、牧野武、毛利清志伊藤鉱一）



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ

テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余カ国へ進出。ポリエステルなど1の生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで



青春の映像

相沢マチ子

撮影・山田真市

All about Machiko Aizawa
a promising Uber Oup player











柔軟性を増すトレーニングは目下、大きな課題



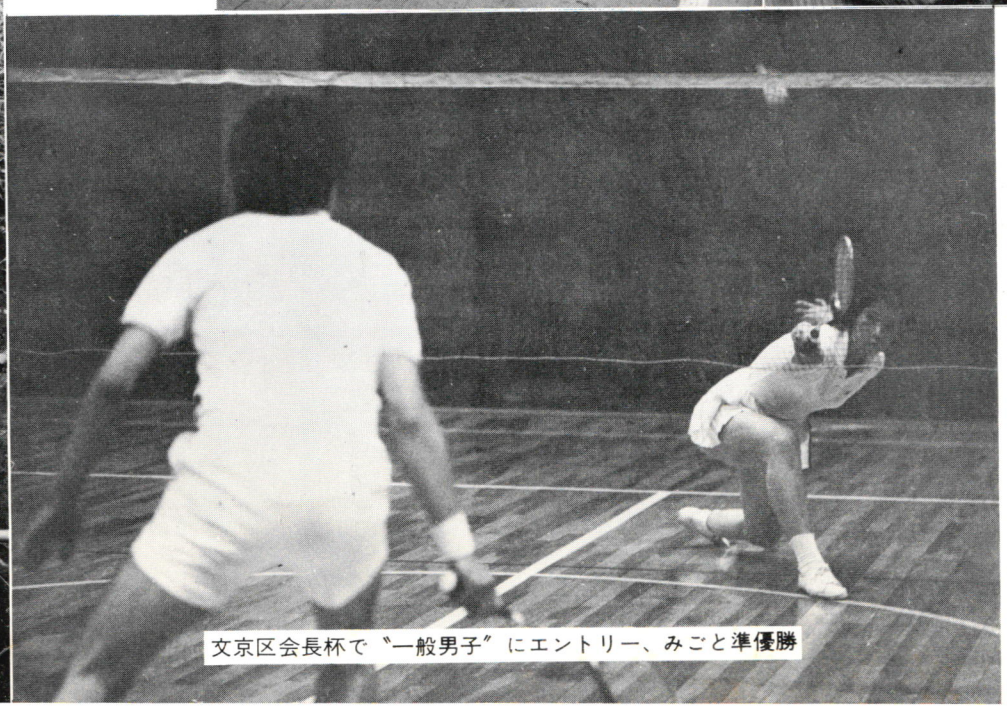
ナワとびはニガ手ではないが、あとひと息





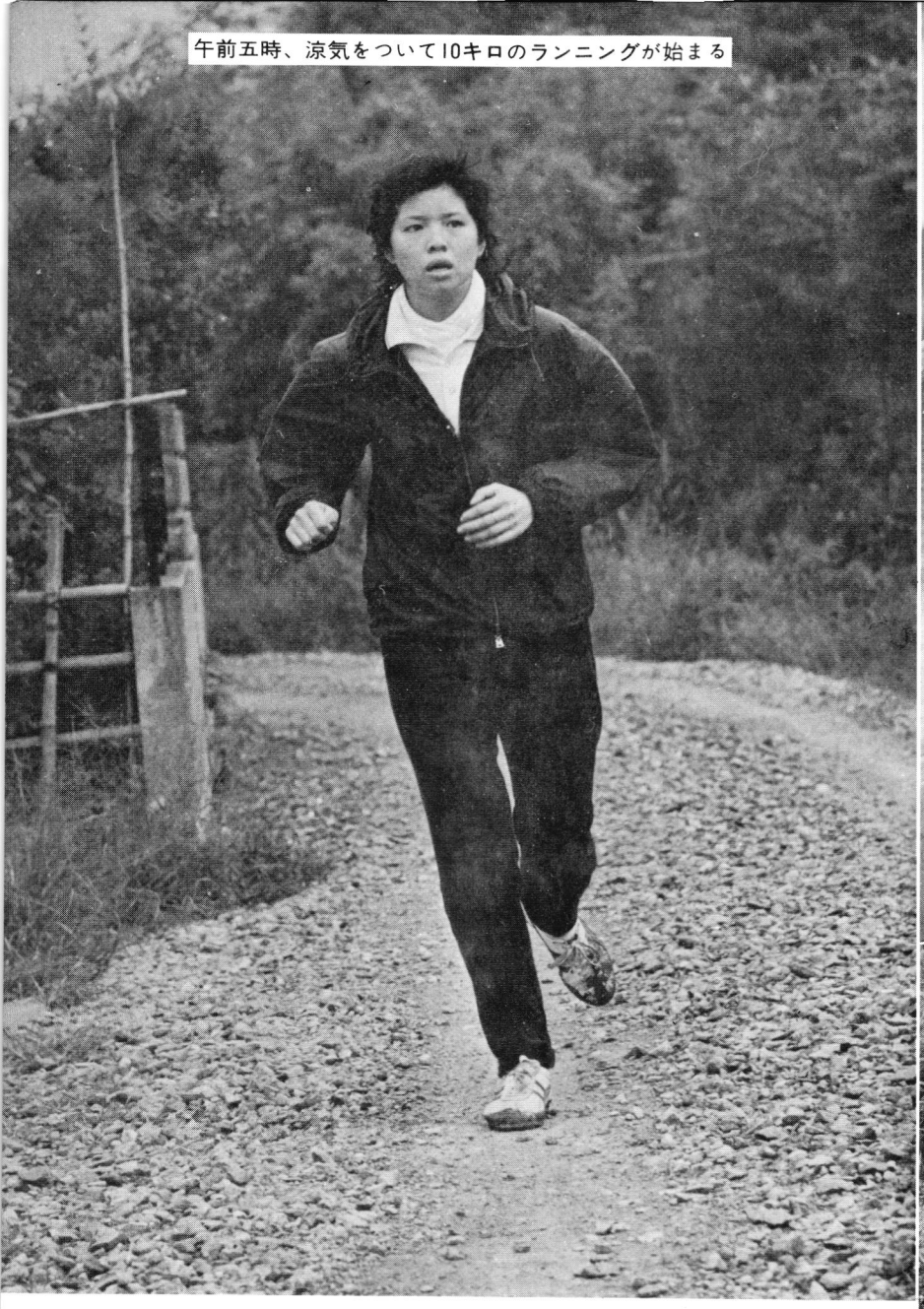


「ほら、そこにもいるじゃない」カエルやザリガニを追いまわす子供たちとのひととき

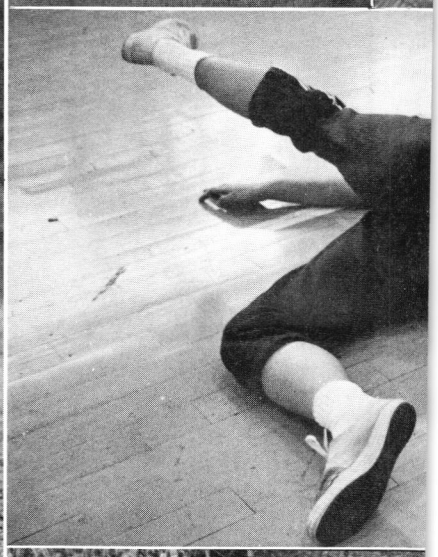


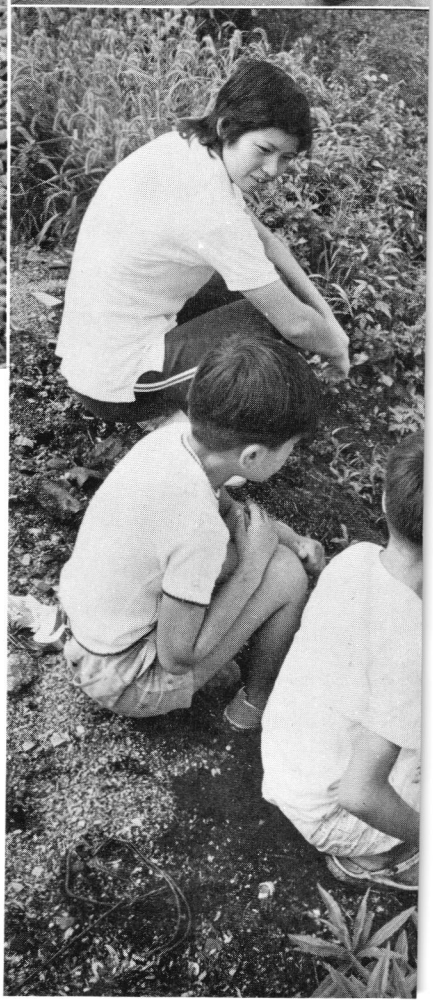
文京区会長杯で〝一般男子〟にエントリー、みごと準優勝

午前五時、涼気をついてトレーニングが始まる









午前五時、涼気をついてトレーニングが始まる。アパートから、ものの百メートルも歩けばもう、そこは、たんぼと畠だ。露をふくんだ黄色金の稲穂が、さらさらと風に鳴る。

マッチーは走る。ただ、ひたむきに走る。静まりかえった、大東京の郊外には、すれちがう人影もない。

マッチーは走る。ただ、ひたむきに走る。走って走って走り抜き、走ることに、いささかの疑念も持たない。

マッチーは走る。吹き出す汗を、拭うことも忘れ、ただ、ひたむきに走る。楽しみが苦しみに変わり、苦しむことが、ふたたび喜びとなって、全身をおおいつくすまで、走ることをやめない。

失なわれた「時」を求めて、マッチーは走る未来につづく「時」を求めて、マッチーは走るゆくてに、なにがあるのか、マッチーは知らない。ただ、ひたすらに走る。

午前六時、眠りからさめた大都会が動き出す新聞配達があとを追い、牛乳屋の自転車が砂利をハネとばす。味噌汁のにおいが流れ、太陽がにぶく昇りはじめた。

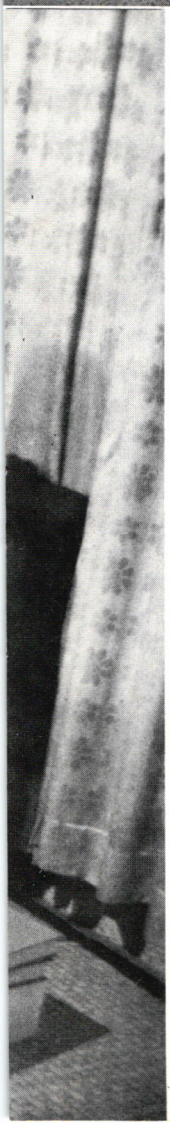


日の買い物は楽しいひととき



得意な料理？なんでもできるわよ、でも……

"ヘロウ イエス イッツ・シー"



マッチーの朝は早い。トレーニングがなくとも、毎朝八時十分には郊外の駅から電車に乗る。乗る位置も、きちんと決まっている。

朝、トレーニングをやるときは前夜から朝食の仕度をしておかなければならない。

超満員の電車にゆられながら、できるだけ本を読む。練習に出かけるときのバスの中でも読む。こんなときしか時間がないからだ。小説はあまり好きではない。目下、興味は時事的なもの。

午前九時、OLとしての一日が始まる。所属は広報課だが、売り上げ統計をつくったり伝票を切ったり、配達もある。忙しいと土曜日でも仕事は夜おそくなる。

夜の練習に出かけると帰宅は十一時ごろ、バタン・キューだ。坐ったとたんに、まぶたがくっついてしまう。こんなときは手紙一本書くこともできない。

しかし、ヒマがない、といっていたのでは、なにもできない。最近、英語の勉強を始めた。動機はあるが、説明は省略する。定期的にやるのはムリなので、夜学に通うのは中断した。参考書やカセットで独学独習している。

―ヘロウ、イエス、イッツシー（はい、私ですけど）―

解放されるのは、日曜だけ一週間分たまった洗濯ものを片づけ、駅ビルまで買いものに行く。この方も一週間、まとめてすまさなければならない。好きなもの？、きらいなのはサカナ類、あとは一日中ボケッとしている。と当人はいう。

ボケッとして、モダン・ミュージックのふところに抱かれている。そして、なにかを考えている。〝なにか〟がなんであるかは当人にも、まだわかっていない。

そうだ、人はときどき、自由な孤独〟にひたって、可愛いい小さな灰色の脳細胞を休めることが必要なのだ。〝

部屋のささやかな書棚にはスポーツや英語関係の書物がぎっしり、もう一方のすみのカベにはパートナー竹中とのダブルスの写真がフスマ張りにして飾ってあった。

その竹中も、間もなくマッチーと二人の住居に戻ってくる。ユ杯が近い。

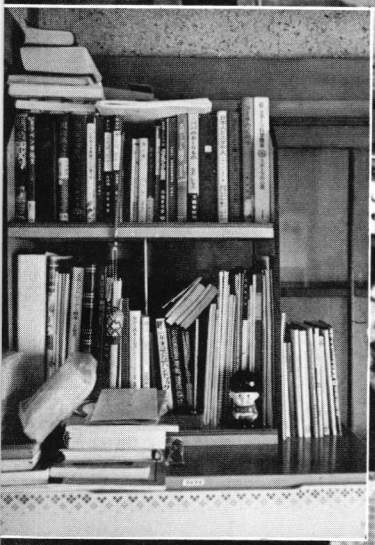


ちょっと、資料とって－職場で



午前八時、ふつうのＯＬの一日が始まる





〝アイム・グラッド・トゥ・ミート・ユー〟深夜まで勉強が続く



小学校二年、食欲の秋、とうもろこしの季節



中学三年、ポーズは一人前、きかん気の表情がちらり

食べる子は育つ!?

〈成長のあとをふり返る〉



高校三年、国体で、まん中は新潟中央高のライバル高坂薫選手



札幌五輪のメダリスト?スタイルはさっそう



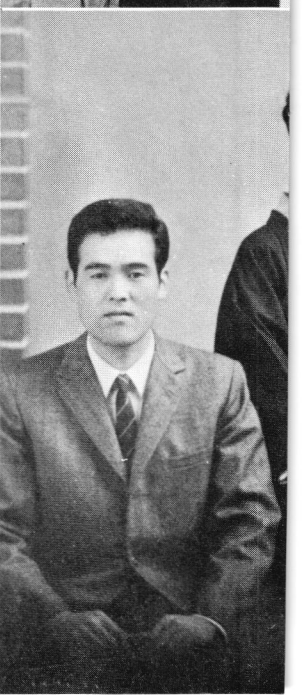
新潟青陸短大進学、竹中とのコンビ始まる。
左から竹中の兄、相沢、竹中の母



小学校６年？お祭りで近所の子と







相沢マチ子との一問一答

――ひとりっ子だろ

「当った。どうしてわかるの」

――好きな色は

「白」（即座に）

――聞かなくても、当然！

「……」いる

――血液型は

「ＡＢなの」

――そうだろうと思ったよ

「性格で大体わかるのね。（考え込むポーズ）「…ホーン」

――みずからの欠点を述べよ

「私はね。お人好しで、それで根性がいい（注、新潟や東北では気だてがいいことを〝根性がいい〟という）のよ。それでね逆にいうと、根気が続かないところがあるわね。

たのまれたら断われないし、頭がまわらないで、何でも額面どおり受けとっちゃう」

――逆に長所について述べよ

「欠点の裏返しね。人がいい、素直だ、といわれる。いやな気分でいたくないから、つとめて明るく人に接する」


大粒の汗 秋天をきらめけり 薫

最近、思うこと

相沢マチ子



凡人では終わりたくない、と思う。

わたしは〝哲学人間〟ではない。だから「それは、どういう意味か」と質問されても、うまく答えられない。

ただ、わたしが最近、よく思うのは、一生のなかで、なにかをやりとげたい、いつも、より高い次元、より高いレベルをめざして努力する人間でありたい、ということだ。

その「なにか」は、自分でもまだ、わかっていない。いまの生きがいはバドミントンであり、そのために努力することもまた、自分の生きがいである。

しかし、長い将来にわたってそうであるかどうかは、わからない。ただ、なにかの都合で、もしバドミントンをやめたとしても、やはり人生を充実させ、「ああ、自分は確かに生きている。人生って、なんてすばらしいんだ」と、いつも思えるような自分でありたい。

小さなことでもいい、他人が聞いたら、吹き出すようなことでもいいから、どんなことでも自分の思っていることを、ぐいぐい実行していける人間にないたい、と思うのだ。

人間の性格は、幼少のころにほぼ出来上がってしまう、という。だから、いいかげん、としをとってから、自分を直そうと思っても、なかなか。

かみしめる〝一瞬〟の重み

なにかをやりとげる人間でありたい

ある人は「人は一生、変わらない」といったが、半面、なにかのきっかけがあれば、意外に変わることもある。

私の場合、上京したことが、いま思えば、ものすごくプラスになったようだ。

どちらかといえば、甘えん坊で育った私は、それまで、人見知りする方で、対人関係はまったくのニガ手だった。

しかし、親元を離れれば、すべて、自分で考え、自分で行動しなければならない。仕事でも多くの人に接しなければならない。頭も下げなければならないし、笑顔も必要だ。イヤでも、いろんな人と話したければ、商売が成り立たない。

いつの間にか、積極的に人と接し、行動するようになっていた。これまでなら、いい話を聞いても「よし、吸収してやってみよう」と思うところで、エネルギーは使い果たしてしまい、行動がおっくうだった。

一つのことを、じっくりと最後まで、やり抜く根気が自分に欠けていた。いま、完全に自分のそういう弱点がカゲをひそめてしまった、とはいい切れないが、東でいい話があれば、とんで行って聞き、西で役に立つことがあれば、その場で自分も始める、というようになってきたことだけは確かである。

ある人が、私に次のようなことを教えてくれた「すべては実践の中で解決される」と。その通りである。考えることは必要だ。だが、考えただけでは、何も生み出さず、変わらない。

しかし、自分がこういうふうに成長できたのも、バドミントンと知り合えたからこそ、である。バドミントンのおかげで、私は、ふつうの人がおそらく体験できないだろう、と思われることを、吸収できた。

海外遠征に行って見聞を広め、バドミントン自体の奥行きの深さに驚嘆したことも、その一つだ。だが、一番、大きいのは、人生の一瞬の重味とでもいうべきものを実感で知り得たことである。

たとえば、ある大会で勝つために、トレーニング計画を立てるとする。何日の何時からは、どこでどういうことをやる、と決め、紙に書く。

もちろん、それが完全に実行できることは少い。練習に行く途中で、交通事故に行き当たって、バスが動かなかったら、その練習はおじゃんだ。

今日できなかったことは、明日、二倍やればとり返せるというものではない。一日カゼで休めば一週間狂うだろう。

一つ、つまづけば、全体が狂う。だから「いま」は未来全体を支配する「いま」なのだ。考えると、ぼやぼやしておれない。がんばろう。

シャトルはなぜ飛ばない？

＝あなたの間違いはここだ＝

〈短期連載〉 第1回

秦　浩

ココがききたい

初心者の疑問に答える

シャトルはなぜ、飛ばない。バドミントンに入門したばかりの人々が突き当たる最初の疑問が、これです。

お答えします。それは、正しく打たれていないからです。といっただけではミもフタもありません。しかし、この〝正しく打つ〟ということが、実は一番むずかしいことなのです。

正しく打つ――それはスタートであり、基本でもありますが同時に終着駅、ゴールでもあるのです。そこで、この稿では、初心者にありがちな欠点を拾い出しながら、どうしたらいいかを考えていきたいと思います。

具体的な例として、まずストロークの始めであり、終わりでもあるクリヤーを中心に話を進めます。初心者はもちろん、中級以上の人々も耳を傾けて下さい。スランプの時は必ず、基本のミスに一因があるからです。

なぜ〝イースタン〟がよいのか

初めてラケットを握り、シャトルを打ち始めた人が、まず突き当たるカベは「シャトルが思いどおりに飛ばない」ということでしょう。

それは、初心者を指導していると「いくら力いっぱい打っても羽根が遠くへ飛ばないのです。どうしてでしょう」という質問が圧倒的に多いことからもわかります。なぜでしょうか。

シャトルを思いどおりコントロールするには、それなりの理にかなったグリップ、スイング、ステップ、フットワーク、リズム、等が必要です。では、あなたのグリップは？　スイングは？　フットワークは？　もう一度、総点検してみませんか。どこかに狂いがないか――がウェスタン・グリップであることです。「バドミントンは追い羽根と同じだ」という先入観（潜在意識）があるからではないでしょうか。

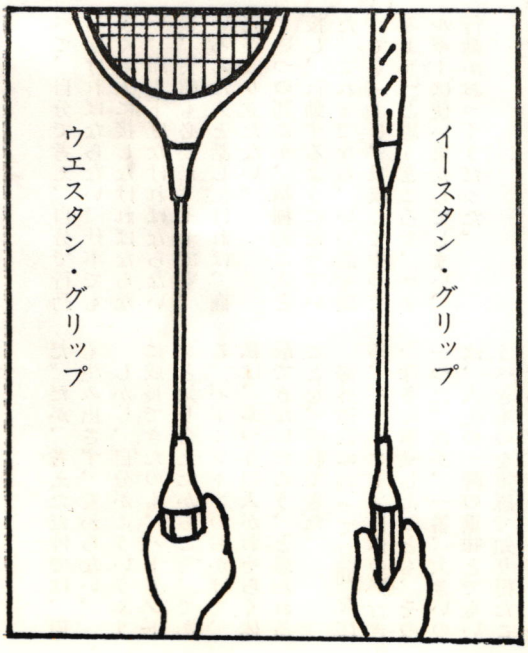
☆グリップ

バドミントンでは、自分の右側に来たシャトルの処理（レシーブ）はラケットの表面で、左側は裏面でと、両面を使うわけですが、そのためには、グリップは手首がの字を描けるような軟らかく、しかも回転がきくようなイースタン・グリップが理想です。

初心者のグリップを見て気がつくことは、なぜか、ほとんど羽根を打つことには変わりありませんが、その打法には大きな違いがあります。バドミントンは通常、シャトルを上から下へ、たたくように打つのが基本とされており、追い羽根は肩口から上へ、押し出すように打つようです。

これは両者の羽根の構造上の違いにより、飛行形体が変わっているからです。下から上へ向かって打ち上げたり、正面に飛んでくる打球の処理は、ウェスタンで通用するのですが、逆に上から打ち下ろしたり、バックの打球の処理には、このグリップではうまくいきません。

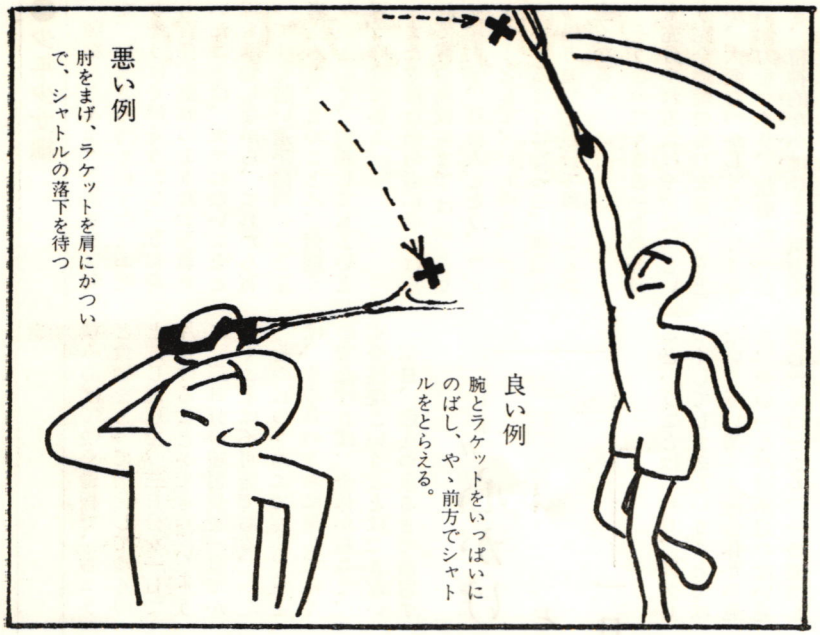
ウェスタンでラケットを振りおろしてみて下さい。グリップ・エンドが手首につかえて、約



90度以上は深く曲がらないでしょう。次にイースタンでやってみましょう。ラケットは、前にくらべ、ずっと深く打ちおろせるでしょう。要するに、手首がちょうつがいの役目を果たしているわけです。

バドミントンでは、この手首をきかすということが、非常に重要なのです。手首が深く曲れば、それだけラケットの振幅が大きく、従ってシャトルに加る力が大きくなり、シャトルは強くはじき返され、加速されて遠くへ飛ぶのです。

あとから説明するスイングやフットワークにも、このグリップが微妙に影響し、関連してきますから、特に注意して直すよう心がけて下さい。



良い例
腕とラケットをいっぱいにのばし、やゝ前方でシャトルをとらえる。

悪い例
肘をまげ、ラケットを肩にかついで、シャトルの落下を待つ

肩口にかつぐ悪いクセ

☆スイング

グリップについで多くみられる欠点、というよりむしろ、グリップが変則であるがために起きる弊害が、スイングとフットワークではないでしょうか。

たとえば、ウェスタン・グリップでラケットを握った初心者がシャトルをヒットするとき、必ずといっていいほどみられる悪い傾向が、まず肩口にラケットをかつぎ、飛んできたシャトルを、ラケットの面にのせて押し出すスイングなのです。〝砲丸投げスタイル〟です。

これでは、いくら力いっぱい打っても（厳密にいうと、押しあげている）シャトルは高くあがる（ポップフライ）だけ。

グリップが変則であるためにそのグリップが通用するフォームに身体の方を合わせようとして、不安定な態形となり、肩に力がはいったりして、ぎこちなくなってしまうのです。

では、どうしたいらいか？

理想的なスイングというのはラケット面とシャトルがミートする点が、腕をいっぱいに振りあげて出来るだけ高い位置、すなわち、身体から腕とラケットの長さだけ離れた点でシャトルをとらえることが基本です。

ラケットを振りあげる際のバック・スイング（ワインドアップ）からシャトルをヒットし、さらにフォロースルーに至るまでの一連の動作は、ごく自然に、のびのびとスイングすること、ちょうど野球のオーバー・ハンド（上手投げ）投手のピッチングのようにスムーズでなければなりません。

必要以上に力を入れたりすると、肩が固くなったり、ヒジが曲ったままヒットしてしまい、シャトルは思うようにコントロールできません。

皆さんは、飛んでいるハエや庭先きに干したフトンをたたくとき、どんなスイングをしていますか。手首がどうの、ヒジがこうのと意識している人はいないと思います。しかし、ハエたたきの面がうまくハエに命中した瞬間のスイングは、おそらく無理のない、しかも思い切った力が加わっているはずです。

ハエたたきを思い出そう

バドミントンでも同じです。決して羽根を打つのだとか、自分はむずかしい動作を起そうとしている、などと意識することはありません。ハエをたたく要領でシャトルをたたけばよいのです。

では、もう一度、復習してみましょう。ラケットを持ってコートにはいり、相手からのフライトを待ちます。

①グリップはイースタンになっていますね②次に、飛んでくるシャトルの真下に身体を移動させます③バック・スイングにはいります④落下をはじめたシャトルと、思い切りのばした腕とラケットをうまくミートさせます。肩と腕の力は抜いていますね。インパクトした瞬間に全力を、そのシャトルにたたきつけましょう。

ナイス・スイング——え、から振りですか？　おかしいですね。グリップはよし、スイングもよし、なぜでしょう。まだ、どこかに欠点があるのでしょうか。

そうです。フットワークなのです。次回は、これについて考えてみましょう。

（続く）

"心がけよ完全燃焼"

どこにいても出来ることがある

一日を失うなかれ

「陳腐（ちんぷ）な決まり文句を、いまさら持ち出すなとお叱りをうけそうだし、私自身も責任のがれのようなお説教めいたことは、ガラにないことと百も承知しながら、これから育ってゆく若い選手諸君のことを考えると、このことは、何度くりかえして、力説してもよいと思う昨今である。

また立派な指導者にひっぱられて育つ高校生までは別として、大学、社会人となり、プレーヤーとして、いわゆる、一本立ちするようになると、練習の〝処方箋〟を自分で書くことが多くなる。

そうなってくると「ああ今日も充分やれるだけやった」という完全燃焼の毎日を送ることが、大変むづかしくなってくる体力をつくり、技能をみがき、精神的なかけひきや気力を積みあげてゆく過程で、ちょうど食物をとって消化してゆくのと同じ理屈で、三日分を一日で片付けることができないように、三日分の練習量を一日でかせぐことは不可能である。

その日のうちにできることは、その日のうちに果してゆくのでなければ、全体からみて、完全燃焼ということはできない

毎日、燃えつきるまで練習するということは、毎日、疲労しつくしてしまえということではない。長い選手生活全体から見て、その一日が過不足のない充実したものであり、その充実した毎日の連続が、終局のゴールに向って延びていることが大切である。

従って、その一日を不用意に失なえば、それは永久にとりかえしがつかないばかりでなく、せっかくの流れに、せきを置き去りにしてゆくことになる。

人には、みな生活がある。生活の中には生理的時間があり、勉学があり、仕事がある。プロ選手なら別だが、アマチュアには、毎日、必ずコートと練習相手に恵まれるスケジュールを組むことはむずかしい。だが、それは私のいう完全燃焼の不可能を意味するものではない。

旅行中で、乗物にのり、旅館に着いてねるだけの一日でも、そこに燃焼させうる何物かがあるはずである。

その生活の中で、可能な範囲の何物かを遂行する——たとえば、旅館の部屋の中で、フロの中で、あるいは道路で、可能な運動、トレーニング——あるはずである。

不幸にして脚を痛めたとしても、軀幹（くかん＝胴体）と上肢のトレーニングは残されている。

クリヤーやスマッシュは、肩や手首を痛めたために練習できないが、ヘアピンやドロップはやれるというのであれば、オール・ショート（こういう名称をつけてよいかどうかわからないが——相手がどこにバードを送ろうが、すべてドロップかヘヤピンでネット際に逃げる——この練習はどこでもよく用いられる効用の高い方法である）に汗を流すチャンスである。

こんなケースで、普通のプレーヤーなら捨てる一日を、立派に活用して、わざわいを転じて福とするたとえのように、急に見ちがえるようなプレーヤーに成長した例を、私は何人も見ている。私の完全燃焼の毎日とはこんな意味のことである。

こころがけしだいで、絶対に一日も失なわないで済ませることができるはずである。「できる限りの工夫と努力を惜しまない」この意欲は諸君自身のものであり、完全燃焼のマッチをするのは、ほかならぬ君自身なのだ。

伸びなやみの不平をかこつ前に、何かできることがあるのに、やらないでいたのではないかという、謙虚な反省があってしかるべきだと、あえて若い諸君に訴えたい。

少し腕が上って、マスコミに扱われるようになると、えてして、初心が失なわれ、時々一日をまるまるすててしまったり、燃え残りのくすぶる日々を置きざりにして、どこかに責任を転稼して、やれ社会がどうの、協会がどうのとぼやくようでは、もう先きが見えたと判断してよい。

勝負の世界はきびしい。階段の途中で下ばかり眺めて、ずいぶん高いところに登ったなあと思ったり、上を仰いで、まだあんなに高く登らねばと、うんざりするひまがあったら、目の前の一つ上の段に脚をかけ続けることである。より上段にある者から、笑われるだけだからである。



〈泣きどころ〉を克服せよ

＝いやな練習にこそ力を入れよう＝

狙われたらダメだ……ではダメだ



試合では、相手が自分を攻めてくる場合にしても、自分が相手を攻略するにしても、大体において、ウイーク・ポイント（弱点）を狙うものである。

相手の得意とする部分ばかりに、タマを集中するような選手は、一人もいないはずである。

極力、相手の得意とする部分を封じ、苦手、苦手への部所へタマを集め、自分に有利な試合展開を行おうと意図するのが普通である。

どのような選手にも、必ず《苦手》《泣きどころ》があるものだ。

その、泣きどころが少く、しかも、どのような部所のタマをも、難なく処理しているのが、いわゆる一流選手である。

一流になるには、やはり、相当な反復練習で、弱点を努力矯正していかねばならない、ということである。

概して、中・高校生はもちろんのこと、大学生でも一、二年生の段階では、技術的に未熟であり、大きな泣きどころが山積しているものである。

ゲーム中、常に自分が攻勢に出られれば問題はないが、逆に、常に守勢の側に立たされることを前提として、最悪の状態を予測しての練習に取り組む必要がある。

泣きどころ、すなわち、弱点の処理には《二つの安全なる逃げ》の練習と、それをマスターすることを、提唱したい。

――パワー、フット・ワーク等を考慮に入れ、各人各様の《安全なる逃げ》すなわち、イコール《攻勢》につながるものであることがもちろん、理想的である。

よしんば、攻撃につながらない逃げ、であっても、自分の態勢を立てなおし、ホーム・ポジションへのリターンができ得れば、その逃げの目的は十分に達成されたわけである。

一番よく見かける例としては、バック・ハンドへの低く、深いタマのレシーブをストレート、すなわち相手のフォア・ハンドのネット前にしか返球出来ず、当然、相手はそこに来て待っており決定的なダメージ（痛手）を与えられていることである。

換言すれば、相手が待っているにもかかわらず、そこにしかレシーブ出来ないということは、絶対的な不利である。

それはそれなりに一つの策として、もう一つの逃げが行えれば、相手の動きを見ながら、不利から一気に攻勢へと逆転することが可能になってくる。

「あの選手には、あそこへ打てば、ここにしか返球出来ない」「私は、ここを狙われれば、もうダメだ」「仕方がない」では全く、お話にならない。

自分の得意な部分、好きな個所には、つい、力が入り、練習量も多くなりがちである。

逆に、きらいな部分は、つい、おざなりになりやすいものである。

きらいな部分は、イコール、弱点であり、弱点の練習は面白くないものである。

いきおい、力の入れ方も、得意な部分の練習の時と比較して相当落ちている場合が多い。

いやな所こそ弱点であるならばその弱点矯正のため、得意な所の練習を数日間、放置しても、徹底的に鍛えることが肝要である。

いやな所をいち早く直おし「どこからでも、どんと攻めて来い!!」このような気持になってこそ、初めて、堂々と試合にのぞめ、かつ、たのしいバドミントンが出来、一流へと成長してゆくものである。

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

9 距離

"下手の横好き"はこまる

＝塩崎睦子選手をモデルに＝

バックハンドについて考える

元日本教職員連盟常任理事　三須徳次

練習時間が毎日3時間あったのは、恵まれていたと私は思います。地方によっては、もっと練習時間がありますが、週2回～3回ぐらいしか練習できない高校が、多いようです。

塩崎選手によると、今後の技術的な課題は、バック・ハンド・ストロークのマスターとのことです。バックが弱いので、バック・ハンド・ストロークに目標を置いたと思われます。

バック打ちについて、私なりの想像ですが、シングルスにおいて、フォアで打つと同じドロップ・ショットを打つことと、ダブルスで腰から肩までの高さを、バックへ攻められたときに、押し返す点に絞るとよくなります。

予知しにくいフォームとコース

塩崎選手のフォアで打つドロップ・ショットは、特徴がありますので参考にして下さい。

くわしく説明しますと

①打つ際のフォームからはドロップか、ほかのフライトが予知しにくいし、そのうえ②ドロップを打っても、ほかの選手のドロップに比較すると、コースの判断を下しにくい。

③さらに頭の真上から、バック寄りの位置で打つドロップ・ショットの行先（コース）は、不明と思われるぐらい、相手にとっては、やりにくいようですけれど、何回も対戦すると、相手も少しづつ慣れてきますから、その点を注意し、実戦面での経験を練習で、いかに生かすかが、カギになりそうです。

④最後になりましたが、ドロップ・ショットのフライトをゆるやかにネット近くにスーと入れる打ち方は、なかなか堂に入っております。

以上①～④の観点から、バック打ちで、フォアと同様なドロップを打つこと。もう一点は、腰から肩までのバックを攻められた場合、バック・ハンドで打ち返すには、打点・返球のコース以外は、月並の言葉になってしまいますが「手首を強化」するしかありません。

辞書でできる手首の強化

手首の強化については、18号でふれましたが、簡単な方法として本（辞書がよい）を持ち、手首のみで、横に∞の字を書く手軽なトレーニングもよいですね。

塩崎選手はシングルスで、バック・ハンドを使用しておりますが、ダブルスでは肩より高い位置でヒットするのに、バックを使わずにラウンド・ザ・ヘッド・ストロークで処置しておりますから、早い返球が可能なのです。

しかたなくバックで打たなければならぬこともありますが、一歩横に動けば、ラウンド・ザ・ヘッドで打てるのに、ついバックで返球してしまったことを、皆さんも経験していますね

ラウンド・ザ・ヘッドの活用

ところが、バックが上手に打てるのなら結構ですが、たまたま成功したからというので、ダブルスでやたらとバックで打ち返す人がおります。その結果、痛打されてしまった失敗の方が多いですね。その点、塩崎選手はシャトルにできるだけ追い着く、基本に忠実なプレーを心がけております。

バックを思うように使えるのなら、ダブルスでもバックを使うべきですから、恐らく彼女自身は、バック・ハンド・ストロークのマスターを目指しているので、ダブルスでもラウンド・ザ・ヘッド・ストロークを使わずに、バックで打ちこなせる日の近いことを願って、練習に励んでいるものと思われます。

終わりに彼女自身の試合経験を聞きましたので、お知らせしておきます。

全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスで、強敵と対戦することになったので、試合前にパートナーと「負けてもともとだから、1点でも多くの得点しよう」と話し合い試合にのぞみました。

試合開始されますと、少々あがりましたが、守備の固さでは定評のある相手側に、しだいにスマッシュが決まり、13対2と大きくリードし、私達はひょっとしたら、勝てるのではないかと思い、だんだん浮き浮きしてきました。

ノリすぎは自滅のもとに

自分達は今から勝負だと思いつつも、一度勝てるのではないかと、浮き浮きした気持ちがどうしても抜けなくて、2、3ゲームをずるずると、簡単に落してしまいました。

ほかの試合のときも、10対2とリードしながら負けてしまったことがあり、気のゆるみがあったからだと、深く反省しました。

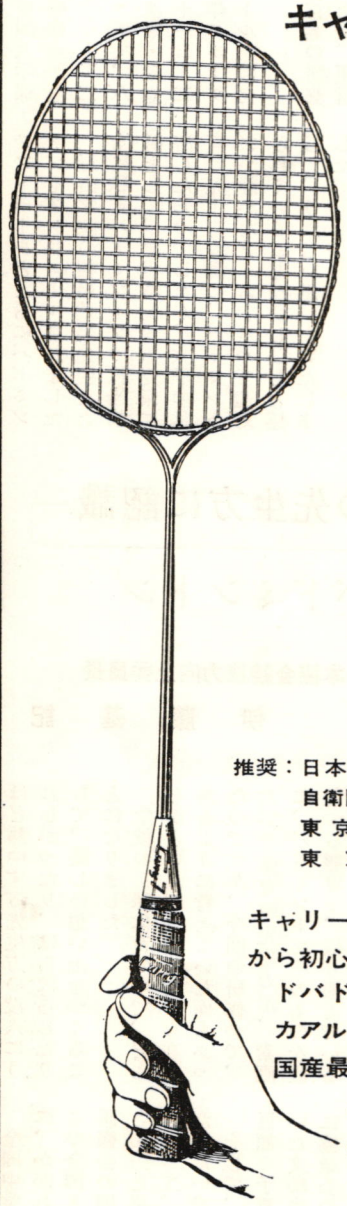
試合に勝つためには、最後の1点というときに、相手側の床にシャトルが落ちるか、相手の体にシャトルが当たるまで、勝負というものは分らないものだと、先輩がいってくれた言葉が身にしみました。

（次回は大型ダブルスをモデルに書く予定です）

WHY, STRONG and LIGHT

カッコイイ銀色のラケット Carry 7

キャリーセブン



￥2,500(フレームのみ)

￥3,000
（ガット、カバー付）

保証期間　6ケ月

折損率 40本 / 10,000本

在東京実業団、高校、
中学校で人気集中!!

姉妹品(格安)

Carry Z

￥2,000（フレームのみ）
￥2,500（ガット、カバー付）

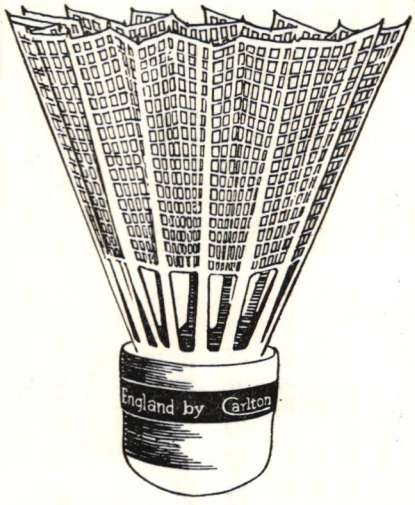
推奨：日本バドミントン協会
自衛隊バドミントン連盟
東京都実業団連盟
東京都中体連

キャリーセブンはチャンピオンから初心者まで、オールラウンドバドミントンラケット、カアルトンラケットに匹敵する国産最高級品です。

あなたも一度、使ってみませんか。

CARLTON
SHUTTLECOCKS

世界最高級カアルトンスチールラケット
3.7(スリーポイントセブン)￥5,800(フレームのみ)
3.9(スリーポイントナイン)￥4,800(フレームのみ)



日本バドミントン協会審査合格品

なぜ!!カアルトンナイロンシャトルの売上げが増大しつづけるのか？　その秘密は!!

1.耐久力：水鳥シャトルの約3.5倍
　　陸鳥シャトルの約6.0倍
2.性　能：水鳥シャトルとほぼ同じ
3.価　格：インターナショナル(試合球)
　　1個 200円
　　カアルトンクラブ(練習球)
　　1個 150円

註 カレッヂナイロンシャトルを新らしくカアルトンクラブと変更しました。カアルトンクラブはカレッヂと全く同一のものです。

Metro Leisure

総発売元

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5－6－4　〒101　電話833－3661(代)

大学の体育の先生方に認識されたバドミントン

日本協会競技力向上委員長
伊藤基記

この夏、第一回の全国大学保健体育協議会の夏季研修会が催されました。八月九日―十二日、箱根の後楽園ロッヂで、八月十五日―十八日、淡路・国立青年の家で、八月二十一日―二十四日、田沢湖青少年スポーツセンターでスケジュールを消化しました。

各期、各会場に約百名の研修の参加者がありましたが、運営委員や講師の先生方もあわせますと、延べ四百名に近い参加者があったわけです。

午前中は講義、午後は実技という日課が着実に遂行され、収穫の多い、充実した研修会であったと思います。

午後の実技の中には、硬式テニス、水泳、体操、サッカー、ソフトボールとともにバドミントンもスケジュールされました。

青山学院の相馬武美先生とともに私もバドミントンの担当講師として、お世話をする光栄に浴したわけでしたが、大学の体育の先生方の間に、バドミントンが静かなブームをもって迎えられていることをひしひしと感じて、うれしい思いをいたしました。

静大の学長、小野先生、協議会の理事長で学習院大の教授をしておられる鈴木先生をはじめ、都立大の中村先生などの温情あふれる斡旋に支えられて「練習これまで」と笛を吹くことがためらわれる毎日でした。

青年の家の〝夕べのつどい〟のチャイムがうらめしいというほど熱中する先生方の没入にうれしがったり、はらはらしたりして、楽しい想い出をつくることになりました。

学校の正課体育の中で、どちらかといえば〝冷飯的〟存在であるように考えていた面もあったのですが、今回の研修会で、大学の体育の先生方が、素直に、バドミントンそのものを直視する態度で、取り組んでいる姿を見て、ここに、大学体育の中に、バドミントンが占めるべき地位を築く兆（きざし）ありと判断して頼もしい気持で一杯でした。

鬼の笑いもなんのその「来年もやろう」との声が聞かれたときは、肩の荷が軽くなった思いをいたしました。

全国中学生大会の成功とともに、かかれたニュースとして、この全国大学の体育の先生方の研修会の朗報として、日バの皆さん方と喜びを分かち合いたいと思って、ここにペンを走らせたしだいです。

そして、この紙上をかりて、巨額の予算を割り出していただいた文部省の関係当局、ならびに協議会の運営委員の先生方、さらに秋田大学の工藤先生をはじめ、地元大学として、会場設営、用具の準備等に犬馬の労を惜しまなかった諸先生、学生諸君諸嬢に厚く御礼を申し上げたい。

§　§　§

みなさん、バドミントンは日本でどのくらい普及していると思いますか。では、競技人口はどのくらい？

実は、私たちにもわからないのです。それはラケットを振りシャトルを追っているすべての人々が〝組織化〟されているわけではないからです。

組織化というのは、日本協会の翼下にある47都道府県協会、学生連盟、中・高校体育連盟、実業団連盟や、その下部機構に〝登録〟されているかどうか、ということです。

これらに関係ない場合は、実態をつかみにくいわけです。もちろん、これは他のスポーツ競技でも同じことです。そこで、わかる範囲、つまり組織化されているものについて調べてみます。以下は66年に日本体育協会がやった全国調査の数字です。

種別	男	女	計
一般	7,299	1,911	9,210
大学専門	1,773	924	2,697
大学高専	133	6	139
高校	14,858	21,520	36,378
中学	12,299	28,947	41,246
計	36,362	53,308	89,670

バドの普及度、高校が最高

中学から一般までの数の合計は上記の表のように、89670人です。他の競技とくらべると、一般では水泳についで、調査39競技（硬式野球除く）中の22位、大学では21位。数の少い高専ははぶき、中学では38競技中13位、高校では同じく38競技中10位です。

また、中・高校についてクラブの設置率をみると、中学では全国九七七〇校中九五六校で9・8%、つまり約10校に1校はクラブがあります。高校は四六七一校中一三六四校にあり、設置率29・2%です。

〝底辺〟である中高校でクラブ設置率の高い競技ベスト5を紹介すると、中学では①バレー②卓球③軟式野球④陸上⑤バスケット、高校では①バレー②卓球③陸上④バスケット⑤柔道、となっています。

バドミントンは、高校ではかなり盛んであり、中学の層を開発すること、一般社会人がやれる場所をつくる努力をすることこれが大切なことがわかります。

北から南から

郵政省もバドミントンのPRにひと役？

どういうわけか、などと書き出すと、テレビのコマーシャルめくが、まったく、どういうわけか、来年の年賀はがき（お年玉つき）に、三等賞品として、バドミントンのセットが出現した。きっと、郵政省のえらい人の中に、バドのファンがいるのかもネ。なにはともあれ、うれしい話だ。いまからでもおそくはない、まだの人はジャンジャン年賀はがきを買って、当てて、いや、ちがった。これは受け取った人がもらうんだ。知り合いの人に、バドをやらせるようにしよう。

「バド界」は女子高生の愛読者―毎日新聞

さる十月十七日の毎日新聞に面白い話が出ていた。「弱きものよ、汝の名は女」のタイトルで、女子高校生のさまざまな好みの傾向について述べたもの。そのひとつ、愛読書の項に〝セブンティーン〟から〝暮しの手帖〟バドミントン界まで、と本誌が登場してきた。都内の女子高校生一八一人が購読している雑誌をアンケート調査した結果だそうだ。

記事の筋は「以前とちがって好みが広範囲となり、云々」だが、それはどうでもよろしい。バドミントンの株も上がったもの。皆さん、これからも、どんどん読んで、お友だちにもすすめてね。

テレビの番組の中にちらりバドミントン

テレビで拾ったシーン二つ。毎週月曜午後九時から（東京）日本テレビ系列で放映中の「つくし誰の子」（主演・池内淳子、ハナ肇）で、主人公の家の玄関のカベにバドのラケットが飾ってある。今度よく見てごらん。

毎週月曜午後八時（東京）TBS系列で放映中の「テレビはこれだ／ドラマが三つも」（主演・堺正章）の記念すべき第一回の番組の中で、マチヤアキ演ずるところのカンチョーマンがアクションするバックに映し出されたフィルムが、ユ杯第二次合宿の風景。湯木、相沢、高坂の各選手の姿がちらちら。娯楽番組の中にバドのフィルムは史上初？　だろうね。

ここにおもしろいデーターを紹介するワ。先きごろ、東京都が大学生と高校生を対象にしておこなった男の子にモテる女学生の条件は何か？　また、どんな男の子が女学生に好意をもたれるかという調査報告なの。

前者の第一位は「愉快な子であること」「第二位に「綺麗であること」三番目が「人格ができていること」第四が「服装がパリッとしていること」で、逆に後者の順序は、第一番に「人格者」第二位に「愉快な人柄」第三が「スポーツマン」第四が「容姿端麗」となっているの。これをみて何か気がつかない？

つい二、三年前までは女性に好まれる男性というと、汗くさ さがムンムンするようなスポーツマン。なァーんていうのが流行（はや）ったけれど、今では全然お呼びではないっていうわけ。やっぱし清潔でユーモアのある男性に現代の女性はひかれるらしいワ（モチロン私を含めてョ）

バドを愛好する男性のみなさん、ちょっと反省の余地があるんじゃない何日も洗濯をしてないようなシャツや、うす汚れのショートパンツ、鼻をつまみたくなるような靴下なんてサイテイよ。モチロン、私たち女性も考えさせられるワ、いろいろと……。

ところで話しは少し飛躍するかも知れないけれど、最近ユニフォーム革命とか、コート上のファッションとかいうコトバをよく聞くじゃない。そこで私の所見をチョッピリ述べさせてもらうなら。――



まず、ユニフォームはいかにあるべきかということから(1)清潔であること(2)活動的であること(3)見た目に美しいこと、が欠かせない三要素であると思うの。ところが現状はどうかしら(1)と(2)は確かに満たしていると思うけど(3)となると今一歩アイデアがあったらなあ、と思うわ。フォーマルなファッション例えばホット・パンツやミニ、キュロットなんかをとり入れたらなんてこともよく聞くし、たまに見かけるけれど、私はユニフォームとタウン・ファッションは異なると思うの。いくらミニがいいからといって、スコートをいま以上に短かくするわけにはいかないだろうし、白いホット・パンツなんて昔あったシ ョーパンにほかならないでしょう。大体サマにならない。キュロットにしても健康なお色気を狙うわが競技にとってはチョッピリもの足りないし……。

やっぱしワンピースがいいんじゃないかしらツーピースはウエアがスコートの中に入っているうちはいいけれど、少し動いているとすぐにおなかのあたりがダブダブになってくるでしょう。あれがイヤ。その点ワンピースはピッタリとフィットするでしょう。デザインにしても多様性があるし、団体戦なんか、同じカラーのリボンでふちどりするとか、おそろいのアクセントをつけたりすれば、チームカラーが、いっそう引き立つと思うんだけれどなァ。色？、モチ白よ。気にいった？

ユ杯は5月29日から

72年度日程案　中学大会は八月、東京

来年度の日本協会主催競技会の日程原案について、競技委員会は別項のように原案をまとめた上、常務理事会も了承した。

最も大きい行事である第六回ユーバー杯大会（世界女子選手権）は五月二十九日から六月三日の六日間を予定しているが、この間には各種競技のビッグ・エベントも多いので、後日、検討の上、ユ杯に影響がありそうな場合は、少しあとにずらすことも考えられるが、この点については、IBFもすでに了承している。

中学大会は中体連（全国中学校体育連盟）の要望もあるので来年の第二回は八月中旬とすることになった。開催地については関係者の意見をつのったところ続けて東京にしてほしいとの意見が多く、東京に決まった。また、使用シャトルについてのアンケート集計は「合成60％、水鳥・陸鳥40％」だった。この件については11月14日後に、競技委員会が案を決める。費用の補助については、最低50万円を望む声が強くなっている。

社会人選手権については、本年度も〝流産〟しかけ、また、実業団選手権も、前年度が本年度末（二月）に延び、一年間に二度開く事態も生れているので、川端理事長と相場競技委員長との間で「社会人を実業団との関連で早急に善処する」ことになった。

これら年次大会計画については、要項案をまとめ、来年一月の総会に上程する。

▽第六回ユ杯（東京・5月29日―6月3日）▽社会人（未定）▽実業団（千葉県茂原市・7月中旬）▽高校（山形県新庄市・8月1日―6日）▽教員（秋田県秋田市・8月9日―12日）▽中学生（東京・8月中旬）▽国体競技（鹿児島県鹿児島市・10月中旬）▽学生（未定・11月上旬）▽全日本総合（東京・12月上旬）

ミュンヘン五輪の公開競技

日本は女子二、男子一参加

IBF（国際バドミントン連盟）の総会に出席した日本協会の高倉正治副理事長（国際担当）の報告によると、ミュンヘン五輪のデモンストレーションとして行なわれるバドミントン競技に、日本からは役員一人、男子選手一人、女子選手二人が参加できることになった。

競技はバレーボールの休日九月四日）を利用して開かれるもので、男子の単複、女子単、混合の四種目をトーナメントで行なう予定。

一月にデンマーク女子招待

ユ杯大会の前哨戦内定

来年一月、ユ杯の前哨戦として、デンマーク女子四選手を招待、久しぶり国際競技会が開かれることが内定した。日程は確定的ではないが、一月二十三日―三十日の間に大阪、東京（二試合）の予定。東京の会場として一カ所は三十日に駒沢屋内競技場が決まった。この日をふくむ二回、カラーで東京12チャンネルと系列局で放映される。このため来年は従来の形式の〝チャンピオンズ・トーナメント〟はない。デンマークは英国とユ杯欧州ゾーンを争う有力候補。

登録期日厳守のこと

登録期日がいぜんとして守られていない。本年度も国体出場選手の未登録が

宮城4、茨城1、山梨1、三重1、京都4、奈良1、鳥取1徳島3、佐賀4、熊本2、長崎1

にものぼった。競技委員会は今回に限り十月九日までに日本協会の登録を完了すれば出場資格を与えることにしたが、毎回、同じことのくり返しではこまるので、年来度（47年）年次大会については、定められた期日までに登録されていないものの参加は認めないことにした。

なお、分担金未納の協会（連盟）の扱いについては、総務委員会の定めに従って処理することになった。

☆**日本協会の表彰委員会**は恒例の四十六年度協会表彰者を選考、常務理事会の承認を得て、十月二十五日、和歌山国体の競技第一日の席上、表彰した。

本年度分は功労賞が三人、国体十回出場が五人である。氏名次のとおり。

◇**功労賞**　日野貞夫（群馬県協会長）和田吉弥（山梨県協会長）後藤鉀二（愛知県協会長）

◇**国体10回出場者**　三国屋滋一（秋田）須藤博（福島）窪田恵三（山梨）北方　匡（石川）森田桂示（香川）

☆**ユーバー杯第三次強化合宿は11月19日から**　ユーバー杯の日本選手団第三次強化合宿が十一月十九日から二十九日まで、横浜市磯子区鳳町の日本石油根岸製油所内体育館で開かれる。連絡先は045・751・2774、宿舎は磯一旅館。

☆**一級審判の試験問題集**を次回総会に上程することを、審判委員会が決定した。

また同委員会は、試合の〝事故タイム10分制〟の廃止にともない、事故が発生したときは、いかなる処置をとるべきか、問い合わせも多く統一見解が必要なので、近く委員会で検討して成案を得ることになった。

《表紙》

相沢マチ子、竹中悦子



春の海外遠征で足を痛めた竹中選手が、いよいよカムバックできる見通しとなった。もちろん、本格的な練習再開までには時間がかかるだろうが、喜ばしいことである。

この竹中と相沢のコンビについては、いまさら紹介するまでもない。新潟青陵短大いらい四年に及ぶ間柄。金沢二水高のエースだった竹中を新潟に迎えるため、相沢は先生といっしょに、わざわざ、何度か竹中の家まで交渉に行ったという。

現在もいっしょのアパート住い。もっとも、この半年、一人は不在だったわけだが、この空白、ひとりになっての生活というものは、きっと二人のそれぞれの成長にプラスしたろう。

◇愛読者の皆さんにお願い◇

一般愛読者の皆さん、各都道府県協会、実業団、教職員、学連はじめ、会員、指導者各位など、あらゆる方々からの投稿をお待ちしています。

楽しい読みものと、実用的な記事を盛りだくさんにしたい、というのが、編集部の念願ですが、本当に〝総合バドミントン雑誌〟をつくっていくには、編集部の力だけでは、むずかしいのです。

編集部の力のたりない点、気ずかない点を指摘し「ここに、こんな話があるぞ」と、お知らせ下さってもけっこうです。情報を提供いただけばこちらから改めて連絡、手配いたします。

指導上の悩み、こんなときはどうしたらいい、私の場合はこうやった、という訴え、経験、ご質問でもけっこう。本号「北から南から」には、小さなエピソードが三つ、四つ載っていますが、このように、ごく身近かな皆さん自身では当り前という話にも面白いものがあります。

編集室

○…東京には空がない、と智恵子はいう——これは、高村光太郎の有名な詩の書き出しだがあらゆる〝公害〟を一カ所に集めたような所が東京。いや、それは東京ばかりじゃない、と皆さんはいうかもしれない。

たしかに、日本は日々、むしばまれている。だが、ここで一億一千万の人々が生活していける。なさけない話だが、現代に生きるためには、からだが丈夫であること、これが最低にして最高の条件である。

○…健康にはスポーツ。スポーツは本来〝楽しみ〟であってからだづくりが目的ではないはずだが、いまや、そっちの方を強調しなければならなくなった。いずれにしても、バドミントンほど、その目的にぴったりの競技はない。協会は世界をシャトルで埋める気になってほしい。

【バドミントン界】第26号
昭和46年9月25日 印刷
昭和46年10月1日 発行
編集兼発行人 川端昇市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六八・三一一一(内線)二五一 四六七・七〇九五(直通)
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都豊島区南大塚二一二九 明宏印刷株式会社
定価 一部 百三十円

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー
ファスト印シャトル
コック製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7 28
電話 02362 (22) 3994(代) 3280・0545

◉全国高等学校選手権（8月1日―7日・善通寺市）＝注、前号記載分は除く

■団体戦男子

▼一回戦

県横浜立野（神奈川）3 単2―1 複1―1 2 北川工（広島）
県長浜商工（滋賀）3 単2―0 複1―1 1 那覇商（沖縄）
県勝山（福井）3 単1―0 複2―0 0 作新学院（栃木）
県木更津（千葉）3 単1―0 複2―0 0 須坂長野（長野）
東奥義塾（青森）3 単1―0 複2―0 0 北海（南北海道）
県明善（福岡）3 単2―1 複1―1 2 高知学芸（高知）
県星陵（兵庫）3 単1―1 複2―0 1 下関商（山口）
県吉田商（新潟）3 単2―0 複1―1 1 甲府商（山梨）
県日和佐（徳島）3 単1―1 複2―0 1 県富士宮北（静岡）

金沢市立工（石川）3 単1―0 複2―0 0 県境湊工（鳥取）
京都商（京都）3 キケン 0 県日田林工（大分）
東北工大電子工（宮城）3 単2―0 複1―1 1 府茨木（大阪）
県高岡商（富山）3 単1―0 複2―0 0 県長崎東（長崎）
県盛岡第四（岩手）3 単2―1 複1―1 2 県松山商（愛媛）
大宮西（埼玉）3 単1―0 複2―0 0 鹿児島（鹿児島）
県新宮（和歌山）3 単1―0 複2―0 0 県福島商（福島）
県松江商（島根）3 単1―0 複2―0 0 県長浜商工
岐阜東（岐阜）3 単1―0 複2―0 0 県木更津
九州学院（熊本）3 単1―0 複2―0 東奥義塾
日大鶴ケ丘（東京）3 単1―0 複2―0 0 県明善

▼二回戦

県富山商（富山）3 単1―0 複2―0 0 県横浜立野
日大山形（山形）3 単1―0 複2―0 0 県星陵
正強（奈良）3 単1―0 複2―0 0 県吉田商
秋田経済大付（秋田）3 単1―0 複2―0 0 県日和佐
金沢市工 3 単1―0 複2―0 0 帯広農（北北海道）
桐生市商（群馬）3 単1―0 複2―0 0 京都商
東北工大電子 3 単2―1 複1―1 2 名古屋電気工（愛知）
県高岡商 3 単2―1 複1―1 2 県坂出工（香川）
県伊勢工（三重）3 単1―0 複2―0 0 大宮西

▼三回戦

富山商業 3―1 新宮
高松商 3―0 松江商
下梅田 2 単1―0 複1―0 0 山陰
北小山 2 単1―0 複1―0 0 瀬戸内
下梅田 2 単1―0 複1―0 0 平本
梅本 2 単1―0 複1―0 0 瀬戸本
下田 2 単1―0 複1―0 0 平本
中原 2 単1―0 複1―0 0 山陰

北栗谷 2 単1―0 複1―0 0 犬山
中原 2 単1―0 複1―0 0 犬山
横浜浅野 2 単1―0 複1―0 0 中江
小古場西 0 単1―0 複1―0 0 山口中崎
横山 2 単1―0 複1―0 1 江口
後藤 0 単1―0 複1―0 2 国崎
浅野 2 単1―0 複1―0 1 田中
日大山形 3―0 日大鶴ケ丘
米山島 2 単1―0 複1―0 0 遠藤藤
中井田 2 単1―0 複1―0 1 長谷川部
三浦谷 2 単1―0 複1―0 0 榎田
米山 2 単1―0 複1―0 0 藤
正強 3―0 秋田経大付
西川野 2 単1―0 複1―0 0 小渡辺部
南井田 2 単1―0 複1―0 1 長谷部
西川 2 単1―0 複1―0 0 新泉
金沢市立工 3―2 桐生市立商
米原田 2 単1―0 複1―0 0 千栗明原
山谷 2 単1―0 複1―0 0 福藤
高橋 1 単1―0 複1―0 2 福田

高岡商業 3―0 東北工大電子
内生蔵 2 単1―0 複1―0 0 伊野東
畠 2 単1―0 複1―0 0 伊東
藤ノ木宮 2 単1―0 複1―0 0 足漆利沢
原 2 単1―0 複1―0 1 後藤
米田 2 単1―0 複1―0 0 栗原
県伊勢工 3―1 県盛岡第四
井崎呂 2 単1―0 複1―0 0 水内沢
中浦瀬田 2 単1―0 複1―0 0 兼上平
野呂 0 単1―0 複1―0 2 水沢
木下 0 単1―0 複1―0 2 下田
北栗谷 2 単1―0 複1―0 0 小北山山
中原 2 単1―0 複1―0 1 下梅本田
井崎 2 単1―0 複1―0 0 山内
高松商 3―1 富山商
中原 2 単1―0 複1―0 1 下梅本田
米山島 2 単1―0 複1―0 0 小古場西
渋谷浦 2 単1―0 複1―0 1 横浜浅野
日大山形 3―0 岐阜東
中原 2 単1―0 複1―0 0 本
木下 0 単1―0 複1―0 1 本田
北栗谷 2 単1―0 複1―0 0 山山
渋谷浦 2 単1―0 複1―0 0 浅野山

米山 2 (17-15-16) 1 後藤
正強 3-1 金沢市立工
西川佐野 0 (12-5-15) 2 米原田
中井南田 2 (15-16-15) 0 山下嶋
西川 2 (15-15-04) 0 高橋
中村 2 (15-17-18) 3 1 米田
高岡商業 3-2 伊勢工業
内生蔵 1 (9-15-15) 2 野呂井崎
藤ノ木 2 (15-15-8) 4 0 中瀬田
畠 0 (2-5-15) 2 井崎
内生蔵 2 (15-15-20) 0 野呂
藤木 2 (15-15-10) 0 浦田

■団体戦女子

▼一回戦

県津幡 3 (単1-1 複2-0) 1 県草津(滋賀)
県今治北 3 (単2-1 複1-1) 2 札幌北斗(南北海道)
鶴鳴女(長崎) 3 (単1-0 複2-0) 0 県甲府二(山梨)

塩釜女(宮城) 3 (単1-1 複2-1) 0 1 九州女(福岡)
県厚木東(神奈川) 3 (単2-0 複1-0) 0 県松江商(島根)
新潟青陵(新潟) 3 (単1-0 複2-0) 0 県福山葦陽(広島)
県石岡二(茨城) 3 (単1-0 複2-0) 0 宮崎女(宮崎)
桐朋女(東京) 3 (単1-2 複2-0) 2 県浪岡(青森)
県吉原(静岡) 3 (単1-0 複2-0) 0 那覇(沖縄)
我孫子二階堂(千葉) 3 (単2-0 複1-1) 1 県新宮商(和歌山)
扇城(大分) 3 (単1-2 複2-0) 2 県日和佐(徳島)
市川口女(埼玉) 3 (単2-1 複1-1) 2 県長府(山口)
県高志(福井) 3 (単2-1 複1-1) 2 県盛岡第四(岩手)
諏訪二葉(長野) 3 (単2-1 複1-1) 2 県宇治山田(三重)

県川内(鹿児島) 3 (単2-1 複1-1) 2 県尼崎西(兵庫)
県渋川女(群馬) 3 (単1-0 複2-1) 1 熊本市立(熊本)
宮城女商(愛知) 3 (単1-0 複2-0) 0 県倉吉西(鳥取)

▼二回戦

県真岡女 3 (単2-1 複1-1) 2 県津幡
鶴鳴女 3 (単1-0 複2-0) 0 県今治北
塩釜女 3 (単2-1 複1-1) 2 清光女(富山)
高松女(香川) 3 (単1-1 複2-1) 0 1 県厚木東
県平商 3 (単2-1 複1-1) 0 1 新潟青陵
土佐女(高知) 3 (単2-1 複1-1) 2 県石岡二
山陽女(岡山) 3 (単1-0 複2-0) 0 桐朋女
四条畷学(大阪) 3 (単1-0 複2-0) 0 県吉原
県新庄南(山形) 3 (単1-0 複2-0) 0 我孫子二階堂

扇城 3 (単1-2 複2-0) 2 新(北海道)得
市一条 3 (単1-0 複2-0) 0 市川口女
富田女(岐阜) 3 (単2-1 複1-1) 1 県高志
県善通寺一(香川) 3 (単1-0 複2-0) 0 諏訪二葉
県真岡農(栃木) 3 (単1-0 複2-0) 0 県川内
県羽後(秋田) 3 (単2-1 複1-1) 1 県渋川女
成安女(京都) 3 (単1-0 複2-0) 0 高蔵女

▼三回戦

鶴鳴女 3-1 真岡女
小浜川 2 (15-15-16) 0 藤井沼野
関上山 2 (15-15-9) 1 0 日向佐藤
川本 0 (9-11-12) 1 2 藤井
小浜 2 (11-11-20) 0 日向野
高国保 2 (15-15-7) 8 0 鈴木佐藤
岡山 2 (15-15-12) 0 0 大中村江
高松女商 3-0 塩釜女

千葉内 2 (15-15-4) 3 0 小野瀬山
平野渡辺 1 (10-9-15) 15 2 川島添
宮内 2 (11-11-5) 6 0 小野山
千葉 2 (11-11-0) 4 0 楠瀬
秋本徳田 2 (15-15-8) 5 0 平林岡
秋本西尾 2 (15-15-3) 3 0 三宅辺田
秋本 2 (11-11-6) 7 0 林
四条畷学 3-0 山陽女
矢口節 2 (11-11-2) 2 0 恵良
矢口間本 2 (15-15-4) 0 0 恵良野
矢口洋川 2 (15-15-6) 3 0 一吉水松
新庄南 3-0 扇城

古谷 2 (11-11-1) 7 0 日比野
佐伯 2 (11-11-2) 6 0 森田
三浦 0 (10-8-12) 11 2 川崎
焼田宮 1 (13-15-14) 12 17 2 森比野
古谷伯 2 (15-15-1) 3 0 川崎梅田
大矢根玖 2 (15-15-6) 1 0 横渡辺田
善通寺一 3-0 真岡農

RECORD

長横田 尾2(15-3-2)0 竹青田
白玖 2(1111-1-1)0 横田
成安女 3―0 羽後
尼谷崎 2(1515-1-4)0 佐丸藤
牧井上野 2(1515-5-5)0 高武橋
尼崎 2(1111-1-2)0 佐藤

▼準々決勝
四条畷学 3―0 平商
秋本西 八2(15-10-5)0 千宮内
秋本徳 幸2(15-0-0)0 平渡野辺
秋本 八2(11-8-11-8)1 千葉
鶴鳴安 3―2 高松女商
川小浜 本2(15-7-8)0 高久保国
上関山 1(8-5-15-15-13)2 岡山口田
関小浜 1(11-9-12-11)2 岡田
川本 2(1111-3-11-5-1)1 久保
市一条 3―2 新庄南
古谷佐 谷2(15-11-11)0 矢早川口
焼田 田0(3-10-15-15)2 矢本間

佐伯 2(1111-4-5)0 今田
三浦 0(1-8-1111)2 矢口
古谷 2(1111-1-1)0 早川
尼谷崎 2(1515-2-7)0 白大矢根玖
牧井上野 2(1515-12-8)0 長横田尾
成安女 3―0 善通寺一
谷 2(1211-3-9)0 白玖

【個人戦】

■男子シングルス
▼三回戦＝折井（関東学）2―1水上（県勝山）、竹林（県坂出工）2―1米国（金沢市工）、米山（日大山形）2―1佐野（吉田商）、江口（九州学）2―0松居（県彦根工）、西川（正強）2―0梅本（県富山商）、杉内（県日和佐）2―0渡部（県会津工）
横山（岐阜東）2―1後藤（桐生市商）、栗（県高松商）2―0鶴田（須坂）、土田（県三条商）2―0木下（県高松商）、小原（専大北上）2―0守座（那覇商）、長谷川（秋田経大付）2―0高本（県大聖寺）
山本（県新宮）2―0高木（札幌西）、中原（県高松商）2―1遠藤（聖学院）、井崎（県伊勢工）2―0中島（日大山形）、中井（正強）2―0森（県長崎東）、下田（富山商）2―0笠野（県石橋）
▼四回戦＝竹林2―0折井、米山2―0江口、西川2―0杉内、模山2―0栗、土田2―0小原、山本2―1長谷川、中原2―0井崎、下田2―0中井持
▼準々決勝
米山2(15-9-10)0 竹林
西川2(1815-13-3)0 横山
土田2(15-2-5)0 山本
下田2(15-6-5)0 中原

■男子ダブルス
▼三回戦＝下田・梅本（富山商）2―0鈴木・吉岡（県富士宮北）、栗・北谷（県高松商）2―1土田・鈴木（県三条商）
米山・中島（日大山形）2―0河瀬・内山（県宇治山田）、山本・平瀬（県新宮）2―1高木・佐藤（札幌西）
米田・原（金沢市工）2―0酒井・奥村（洛星）、横山・浅野（岐阜東）2―0足利・漆沢（東北工大電子工）、水上・大道（県勝山）2―0佐々木・大浦（八戸市商）
西川・佐野（正強）2―0笠野・岩村（県石崎）、中原・木下（県高松商）2―0冠木・鈴木（県会津）
長谷川・岡部（秋田経大付）2―0山本・宮崎（府鴨沂）、小場・古西（岐阜東）2―0佐藤・松本（札幌工）
竹内・玉利（県星陵）2―0石川・前田（勝山商）、大場・秋葉（県山形工）2―1岡・倉内（県新宮商）
別森・笠谷（県高岡工芸）2―0八巻・岩崎（仙台三）、中井・南田（正強）2―0蛸井・下野（帯広農）、井崎・野呂（伊勢工）2―0三浦・福士（東奥義塾）
▼四回戦＝下田・梅本2―0栗・北谷、米山・中島2―0山本・平瀬
米田・原2―1横山・浅野、西川・佐野2―0水上・大道
中原・木下2―0長谷川・岡部、小場・古西2―0竹内・王利
大場・秋葉2―0別森・笠森、中井・南田2―1井崎・野呂

■女子シングルス
▼三回戦＝秋本八（四条畷）2―0加藤（県浪岡）、草間（清光女）2―0鈴木（県渋川女）、村瀬（昭和女）2―0林（山陽女）
高国（高松女商）2―0服部（成安女）、古谷（市一条）2―0竹田（県真岡農）、千葉（県平商）2―0高野（県新潟中央）
白玖（善通寺一）2―0桝谷（県尼崎西）、森田（富田女）2―0山田（我孫子二階堂）、佐伯（市一条）2―0山川（高蔵女）
藤井（県真岡女）2―1作久間（県新発田商工）、島田（高岡女）2―1林（県宇治山田）、矢口（県新庄南）2―0瀬戸（県平塚商）
大矢根（県善通寺一）2―0小山田（帯広大谷）、谷（成安女）2―0樋口（市長崎商）、高橋（尚絅女）2―0田村（県吉原）、西尾（四条畷）2―0市村（県甲府第二）
▼四回戦＝秋本八2―0草間、高国2―0村瀬、古谷2―0千葉、森田2―0白玖
作伯2―0藤井、矢口2―0島田、谷2―0大矢根、西尾2―0高橋

■女子ダブルス
▼三回戦＝西尾・秋本八（四条畷）2―0大久保・六野（県勝山精華）、山田・平野（我孫子二階堂）2―0矢口・早川（県新庄南）
長尾・横田（善通寺一）2―

0高野・小林（県中央）、森田・日比野（富田女）2—0高橋・武田（県羽後）
林・平田（山陽女）2—1榊・浜田（東奥女）、百葉・宮内（県平商）2—1越原・岡崎（桐朋女）
白玖・大矢根（県善通寺一）2—1松尾・森山（九州女）、焼田・田宮（市一条）2—0島田・矢地（県高岡女）
矢口・本間（県新庄南）2—0志田・田村（県吉原）、谷・井上（成安女）2—0小野山・楠瀬（土佐女）
石井・安藤（善通寺一）2—0芳賀・木村（県若松女）、秋本平・徳田（四条綴）2—1小浜・川本（鶴鳴女）
佐藤・小竹（専大北上）2—0樋野・米原（県松江商）、岡田・山口（高松女商）2—0枡谷・渋谷（県尼崎西）
林・瀬尾（県宇治山田）2—0鈴木・清水（捜真）、佐伯・古谷2—0大江・中村（塩釜女）

▼四回戦＝秋本八・西尾2—0山田・平野、長尾・横田2—1森田・日比野
千葉・宮内2—1林・平田、白玖・大矢根2—0焼田・田宮
矢口・本間2—0谷・井上、秋本幸・徳田2—0石井・安藤
岡田・山口2—0佐藤・小竹、佐伯・古谷2—0林・瀬尾

◉第20回近畿中学校選手権大会

（8月24日、大阪市立東淀川体育館）

■男子団体

▼準決勝
勝山（大阪）3—1正強（奈良）、交野（大阪）3—2洛星（京都）

▼決勝
交野（大阪）3—2勝山（大阪）

■女子団体

▼準決勝
四条綴学園（大阪）3—2日吉（滋賀）、花乃井（大阪）3—0瀬田（滋賀）

▼決勝
花乃井（大阪）3—1四条綴学園（大阪）

◉昭和46年度東海総合選手権大会

（9月11・12日・富田学園体育館）

■男子ダブルス

▼準々決勝
森・河田（岐阜）2—1井崎・河瀬（三重）、増井・小林（三重）2—0吉村・二見（静岡）、大世古・南（三重）2—0上原・安藤（岐阜）、伊村・樋口（愛知）2—0大石・平野哲（静岡）

▼準決勝
河森田 2(1515—8 4)0 増井小林
伊村口 2(1515—8 8)0 大世古南

▼決勝
河森田 2(1517—15 3)0 伊村口樋

■女子ダブルス

▼準々決勝
橋本・池田（愛知）2—0深瀬・石川恵（静岡）、紅谷・村田（愛知）2—0竹野・大石（三重）、工藤・紺野（愛知）2—0嶋・石川真（静岡）、森田・日比野（岐阜）2—0山本・富居

▼準決勝
橋池田 2(1515—1 4)0 紅谷田村
工紺野 2(1515—6 3)0 森田比野

▼決勝
橋池田 2(1515—11 4)0 工藤野紺

■男子シングルス

▼準々決勝
樋口（愛知）2—0河田（岐阜）、池田（岐阜）2—0古西（岐阜）、平松（愛知）2—1平野（静岡）、森（岐阜）2—0松島（愛知）

▼準決勝
樋口 2(1515—13 3)0 池田
森 2(1515—4 0)0 平松

▼決勝
森 2(1515—6 7)0 樋口

▼準々決勝
日比野（岐阜）2—0工藤（愛知）、天野（岐阜）2—0富居（愛知）、紺野（愛知）2—0森田（岐阜）、池田（愛知）2—0橋本（愛知）

▼準決勝
天野 2(1111—7 1)0 日比野
池田 2(1111—6 2)0 紺野

▼決勝
天野 2(1111—2 8)0 池田

◉第二回埼玉県中学選手権大会

（8月27日・上尾体育館、29日・越谷体育館）

■男子団体

▼準決勝
越谷北A3—1吹上中、越谷中央3—0越谷北B

▼三位決定戦
越谷北B3—0吹上中

▼決勝
越谷北A3—1越谷中央

■女子団体

▼準決勝
越谷北中3—0八潮中、鳩谷中3—1越谷中央

▼三位決定戦
越谷中央3—1八潮中

▼決勝
越谷北中3—0鳩谷中

■男子個人戦・シングルス

▼準決勝
金子（越谷北）2—0新海（越谷北）、染谷（越谷中央）2—1溝口（越谷北）

▼三位決定戦
溝口（越谷北）2—1新海（越谷北）

▼決勝
染谷（越谷中央）2(1515—9 4)0 金子（越谷北）

■女子個人戦、シングルス

▼準決勝
佐藤（鳩谷）2—0安部（鳩谷）、松沢（越谷中央）2—1佐藤（越谷北）

▼三位決定戦
佐藤（越谷北）2—0安部（鳩谷）

▼決勝
松沢（越谷中央）2(1111—6 7)1 佐藤（鳩谷）

■男子個人戦・ダブルス

▼準決勝
溝口・新海（越谷北）2—0山本・大沢（越谷中央）、新戸・染谷（越谷中央）2—1金子・森田（越谷北）

▼三位決定戦

金子・森田（越谷北）2—0山本・大沢（越谷中央）

▼決勝

新戸・森田（越谷中央）2（18—15 15—8）1（15—9 15—13）溝口・新海（越・越谷北）

■女子個人戦ダブルス

▼準決勝

佐藤・上村（鳩谷）2—1佐藤・三浦（越谷北）、松沢・野口（越谷中央）2—1高橋・増田（越谷北）

▼三位決定戦

高橋・増田（越谷北）2—0佐藤・三浦（越谷北）

▼決勝

松沢・野口（越谷中央）2（15—5 15—5）0佐藤・上村（鳩谷）

◉第十六回東海実業団選手権大会（10月3日・刈谷市体育館）

■男子団体

▼準決勝

トヨタ自工3—2日本電装

名鉄3—0新日鉄名古屋

▼決勝

名鉄3—0トヨタ自工（名鉄は初優勝）

▼三位決定戦

新日鉄名古屋3—2日本電装

■女子団体

▼準決勝

豊田織機A2—0本州製紙富士A

トヨタ自工2—1豊田織機B

▼決勝

トヨタ自工2—1豊田織機A（トヨタ自工は3回目の優勝）

▼三位決定戦

豊田織機B2—0本州製紙富士A

◉第26回国民体育大会競技九州予選会（9月5日、長崎国民体育館）

■高校男子

▼準決勝

熊本3—0鹿児島

長崎2—1福岡

▼決勝

長崎2—1熊本

○山町田2（8—15 15—15 11—1）1国崎中田

○森町田重2（17—15 15—8 14—2）0国崎江口○

■高校女子

▼準決勝

長崎2—1福岡

鹿児島3—0大分

▼決勝

長崎2—0鹿児島

○小樋口2（15—1 15—3）0石山下川

○小浜2（11—1 11—2）0石川

■教員男子

▼準決勝

福岡2—1大分

熊本2—1長崎

▼決勝

熊本2—0福岡

○工本郷2（15—3 15—4）0鎗水都

○工藤2（15—2 15—3）0中島

■一般女子

▼準決勝

長崎3—0宮崎

福岡2—0熊本

▼決勝

長崎2—1福岡

柿本徳本0（9—13 15—18）2樋本古賀

○徳水2（11 11 11 11 12 11 12）1古賀

○柿本2（11 11 11 8）0樋本

日本バトミン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社　大阪府八尾市福万寺町4—72　TEL 0729 (2) 3217
◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）

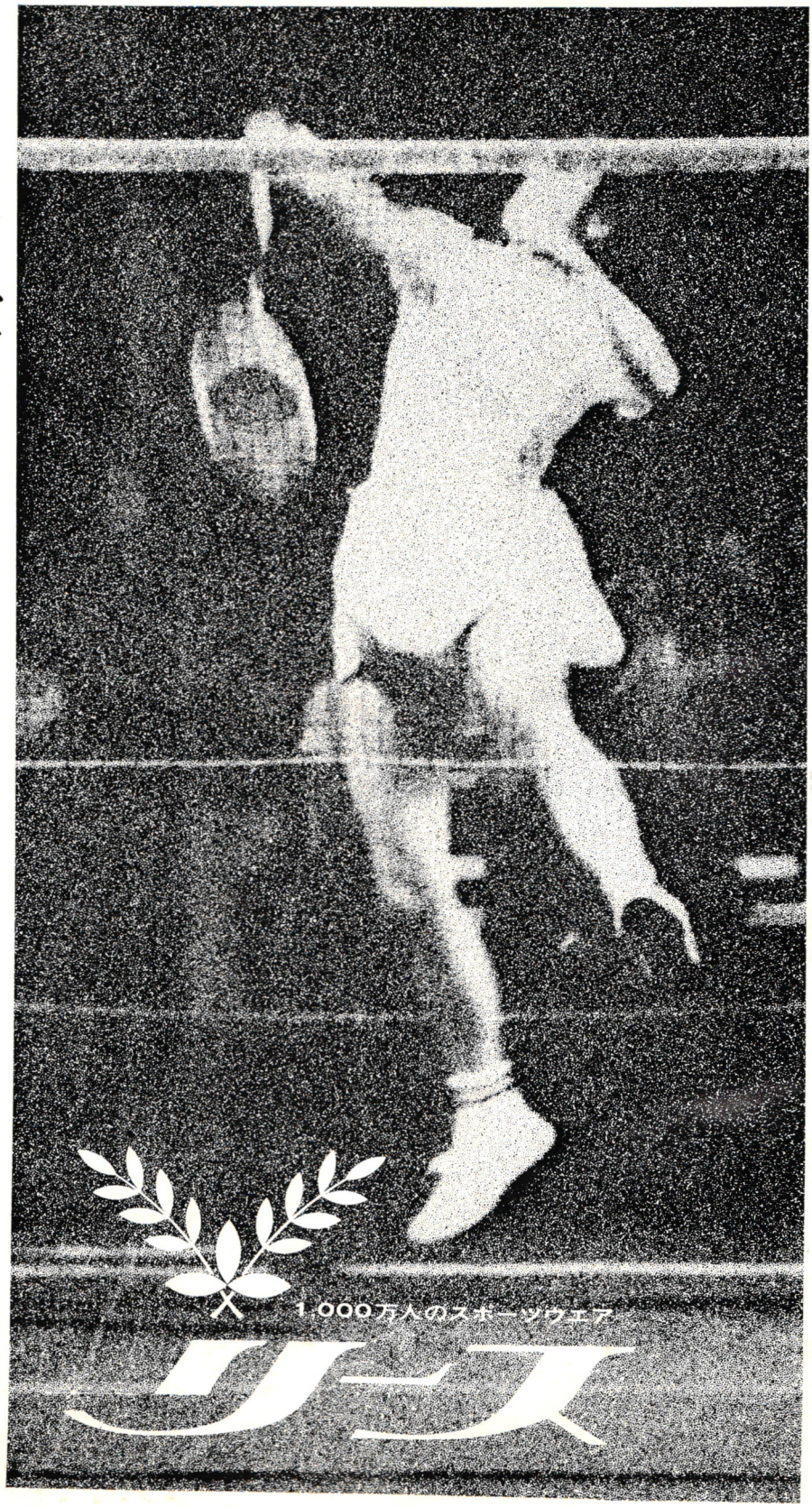
鐘屋産業株式会社　東京都文京区本郷3—17—2　TEL 03 (811) 3773
◎ ナイロン　A級　◎ 綿　B級

(株) 寺西喜商店　大阪府八尾市福万寺町4—31　TEL 0729 (2) 3210
◎ バトミントン・ネット　C検定

(株)ジイティヤング　本社　大阪市南区東平野町2—25
支社　東京都墨田区本所1—36—2
◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐

ミセキセット製作所　埼玉県北葛飾郡幸手町中1—7—4　TEL 04804 (2) 0379
◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-884・0453

月刊「バドミントン界」第26号
昭和四十六年十月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 日本バドミントン協会 定価百三十円

